

新國字論

全

104

240

076929-000-8

104-240

新国字論

白鳥 鴻幹/著

M31.3

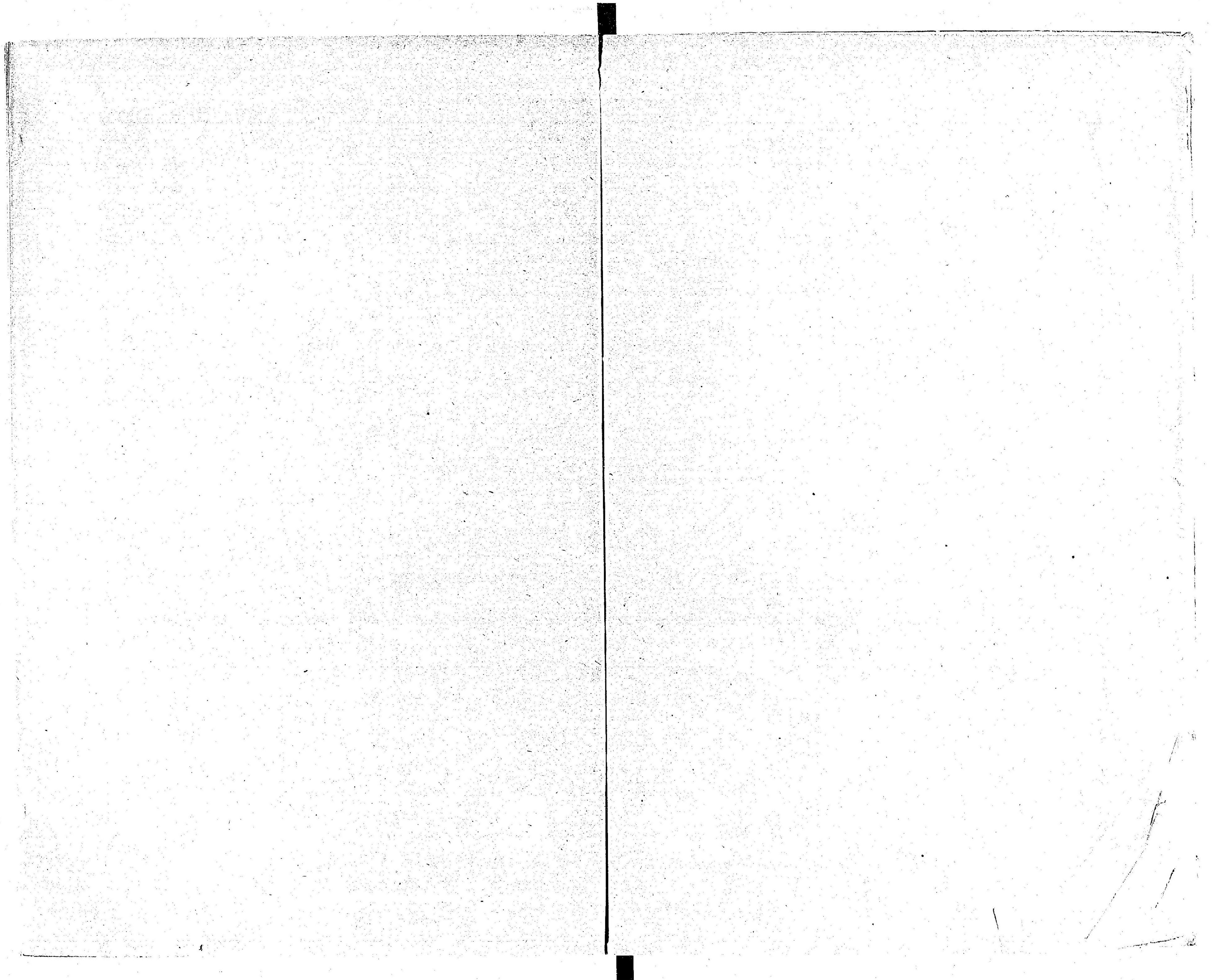
DAC-0097





104  
240







新國字論

凡

例

此書の新文字は明治十八年頃偶と著者の心に湧き出てたるより始りたる



て爾來年又年明治二十六年頃に實印に彫刻せしめ或は常用日記等に用ひて自然に其効力を發見したるものなり

本篇の議論は著者が平生胸中に鬱勃たる自説に間々世上の大學者が意見を参酌して其論点を繕め其非点を





排し其是点を贅したるものなり  
新文字の活用に就ては其實用の便且  
廣大なること及将来内地雜居の際國  
文國俗或は國語上の變動等に関し著  
者尙意見あれば何れ新字實用論を編  
して世の公評を仰がんとす故に本書  
は将来の日本文字は此新文字を採用  
せざるべからざるを主として論せり  
本書の文字或は世間に之が一端を知  
りしものあらん然に其書冊となり一

議論として顯出せし乎將た其最先主  
唱者は餘よりも他に之れ有るや否や  
著者は未だ之を聞かざるなり  
本書の學事及新紙の統計は二十七八  
年度に據りたるを多とす是れ著者は  
兩三年前に筆を起し爾後世事に追れ  
たるが為なり然れとも虚妄なきは保  
証する所なり  
本書はつとめて俗流俗句を應用し諸  
事及世故を穿ちを主とせり故に流暢



ならざるどころ將た莊麗ならざる失  
点あるは勿論なる可し是れ著者が本  
論の主意と達意を專一としたる故に  
れば讀者諸君之を諒せられんことを

明治三十一年二月

著者誌

緒言

一余は今本篇を草せんとするに當り可成的諸般の學に涉り廣く詳  
論せんとしたれとも其は個人の業としては容易の事に非れ、稍  
疎漏の点をきに非るべし且つ余は國家を憂ふる餘り却て急激の  
議論なきに非れ共一時に漢文字を全廢せんとする本意に非ず諸  
君は宜く其最も便利とする点より着々採用せられんことを

一又余が本篇を綴らんと思ひ立ちたるは素より營利若くは名譽の  
目的を以てものしたるに非ず況して余が如き拙文者に於てをや  
其文句の如きも俗語を用ひ俗例を採れり然して余は常に想ふ漢  
字は假令當世の才子名流が手腕に依り頗る有用活潑に今世紀を  
渡りつゝあるも是れ到底滅亡せざるや古來漢字の社會を益した  
る点、幾何ぞや今世紀の新世界を顯出するに盡力し其功勞至大



至廣にして如何なる宗教家如何なる政治家又ハ武界家よりも今日識者の爲に尊信せらる、「ジョームス、ウアット氏」「ジョン・グーテ、バルク」氏或は「スミス氏」等は何故乎悉く洋字の國民にして漢字の國民にあらざるや何が故に西洋ハヒトリ世界に独歩して東洋漢字の國民ハ雌伏するや是れ實に教育に在らん然らば其教育は如何其文字は如何と余は之を討究せんと欲して止まざるなり  
一余は實に斯く思ひてこゝに漢字改正の急務を説き新字の活用を述ぶるなり而して余が本篇に演べんとする主眼は夙に卓識高見の諸名士が稍々唱道せし所なり只其異なる点は此所論と字形の弁明に存するのみ何となれば是まで前進識者の主唱せし所は漢字の迂濶不便なるを憂ひて更に絶對的の意見と文字を主持せしものと或は漢字の文明世界に不便利なるを知るもその文章詩句

に顯はる、や頗る莊麗典雅なるを喜び其捨て難く將た改め難く思ひけるにや之を排撃するの筆鋒を振はずしてこれを應用して漢字刪減説を唱ひ而して簡明通俗体の文章を創め又は言文一致体を綴りて目今我等の社會に持雜さる、ものとの二大別あればなり然れとも單に文字の大改正と云ふ点に於てはヒトリ前者のみにして後者は只間接的方法に過ぎざりき故に余は前者の意見が容易に行れがたきと其欠点を云々して而して余が新字に及ぶ可きも後者に就ては敢て云々の勞を取らざるなり  
一顧小に明治十七八年の頃は我日本の社會否も我先進識者の舉動は頗る快活勇壯にして社會の制度文物は日々に新まりけるが今や却て保守沈滞の觀をまにあらず彼の羅馬字雜誌の如きは切に漢字の頼むに足らざるを喋々し文字の革新を為さざるべからざる



ること等を絶叫せり當時余は其第六号雜報中左の記事をも一見  
せしことありき

### ZAPPŌ.

Rōmaji Kai.—Sei-reki 1878 neri Fransu  
no Paris nite hirakaretaru Toyō kaigi ni oite,  
sudenti Nippon wa Kore made mochihi kiharitaru mo-  
ji wo haisubeshi to no setsu aritari. Nippon wa  
nanigoto mo Yōroppa no hummei ni narawan to neshin  
seru ni wa hizu, moji ni itatte wa skoburu kyūshū ni  
yasuniji, kano jchi-go wo arawasu goto ni itai no kigō  
wo mochiyusu kiwamete fuben naru kanji wa imada ni Sakān  
ni okonawaru to wa keshikaranu koto ka to omowaru kono  
kanji wa ima made no Nippon jin ni wa aruiwa jūbun narishi  
ka shiranedomo, kore kara no nippon jin ni wa hanahade fujūbun  
naru koto to omowaru. Tokyo Daigaku no kyōjū gata wa koto  
ni inru tokoro arite, mizukata susunde shushō-sha to nari  
kyōhen 12 gatsu ni Romaji kai wo okosaretaru ni, Soho Kai-in  
sudenti Sen yo mei ni itaritari, kono kai wa mazu Nippon  
jin 5 mei, Saikoku jin 2 mei wo kakikata torishirabe jin  
nierabi, Romaji wo motte Nippon go wo tsuzuru no ho wo  
gitei seshimeta ru ni, Sumiyaka ni Soho ko wo tsugetarito  
iu. Isugi no jigyo wa ippan jimmin no tame ni Romaji wo  
motte tsuzuritaru jibiki wo shuppan suru koto to omowaru.  
Dokai nite wa mata Zasshi wo mo kankō su, unun to,  
Sukoshi wa jijitsu no sei wa aredo, saru 8 gatsu 6 kano  
"Wiener Neue-Preie Presse" shūbun ni mietari

斯の如き記事を加ふるに当時高名の人々が奮ふて之れに賛成す  
るが故に我々も心算に大賛成を抱けり而して当時我学者社会が  
文字の改正に熱心たること實際よりて一方は漢字を全廃する此  
の説彼の拳あるに当り一方は假名の会なるもの勃興せり之を  
以て我々は心益々喜び曾て大に豫想して曰く真成の用化は教育  
の普及に在り教育の普及は佶屈不使の文字をすて、平易簡便の  
文字を採用するに在るなりと然に月日は匆々流れて水の如く世  
は流轉僧も輪回の政治談一奥の地、前九後三と続く流車つせと  
はなりける今日に至りて社会の前面を通覧すれば文字上多少の  
進歩あきにもあらずと虽も却て沈滞保守に傾きて漢字の行は  
る、こと依然たり生涯の疵は夙籍を見ぬ眼玉と嘲弄せらる、も  
字知りの理知らず又は不就学の同胞は天下の大半或は十人九に



当るにあらずや勿論人口の増殖と共に修学の子弟は次々に増加  
しつゝあるは喜ぶ可き事実なれども将来の日本人に此の雑居字  
を教授するは果して考察力ある活用心ある良國民を生出し得べ  
きや或は其魅力を損せざるや否や徒に不便の文字に脳力を濫費  
し漢字に汲々たりは其精神疲弊して所謂東亞の特色たる薄志弱  
行の民を輩出する恐れあるにあらずや

一今や官海に於てのみならず又民間に於ても多少文字を知る者は  
又対の人物又対の意見を聞くとときは之を考察研究するの念慮を  
起さんとせずして是を冷評漫罵するを以て只是れ快なりとする  
或等の社会は果して有学の結果乎無識の效顯乎深く社会の内外  
部を考察すれば随分思ひ考る可き事実ふきにあらざるなり  
一余は是等の臭い就き委細の議論精細の証拠を立て、如何に我々

の社会に活用なき乎彼の中小学を卒業んとする学生に其金力の  
大半を擧げて文字を知る為に汲々たるにあらずや如何に漢字は  
不消化にして我々の青年を害しつゝあるやを掲記せんと勉めた  
り然れども方今我國に斯の如き統計表絶てあるなし故に余は之  
の証拠立つるに西洋の社会は如何に新聞雑誌を購読しつゝある  
や而して東亞の社会は如何ぞや假令小学校を卒業するもの毎年  
五拾万をらんとするも彼の新聞雑誌は果して之に伴ふて進歩し  
つゝあるや若し新誌を見ざる間かざるもの多しければ是れ何の  
原因ぞやと遂に推理的の統計を爲さざるを得ざる議論に立至り  
たる所なきにあらずねども天下の實際は我々を欺かざる可し况  
んや社会の現況はひとり市町村役所に於て手加減したる統計表  
而已にあらざるべし



余は豫言し余は将来の日本國民、世界を闊歩し宇内を睥睨せんと欲すれば益々外國語等を練習するの必要こそあれ到底漢字の如きクダラヌ講釋不用的の字義に熱心する餘祐なきに至らん否ナ寧ろ其必要なき以て彼の漢文字はわらびの揺け文字で瘦瘠必滅するの時極あることを我ながら悲まざるを得ず然れども是れ却て社会の爲め文運の爲め我々は之を祝しこれを慶するこそ國民の本意ならずや

一余は常々羨み曾て感嘆するは歐洲の「アルファベット」なり之れは学理上より論究すれば幾多の瑕点なきにあらざれども彼等は此の僅々二十六字の便利字が自由自在に相綴りて千種万端の語を造り千万無量の學術を説きて不便利なることなし故に彼國には本字と假字との差別あることなしあるは只此の二十余字のみさ

れは書籍と言葉とは東亞の如き懸隔と相違なく互に密接の關係ありて之を以て学べは入り易く至りやすしこれを以て論ずれば悟り易く解しやすし同一年教同じき学科を蹈みて社会の実学實際に當らしめば彼我果して如何や是れ彼等に大衆明家大文学者大事業家大金満家大政治家等ましく随つて其國家も富強文明なる所以の一大因源なりと謂はざるを得んや

一翻つて東亞の天地を見れば朝鮮安南は謂ふに足らず支那日本の如き人口非常に多ふく土地亦廣大なれども一國の元氣民智の振作に大關係ある肝腎かなめの通用字は非常に不便非常に迂遠の象形字より其國民はよめず臆せず新聞紙の絵ばかり見るもの数知れず將た論語よみの論語知らず統々輩出せり豈にこれ一大痛嘆の至りならずや



之が以て方今東亞の社会に於て國家の富力上國民の智力上及び  
 實業上に就き最先最急の一大要務は何物なりやとの大問題とし  
 て起るあらば余は正に我が漢文字の大改正に在りて存するなり  
 と大断言するを憚らざるべし故に如何にもして斯の難屈不便の  
 文字が読み象形奇態の文字に苦沈し居る幾億千萬の明めくら無  
 活用の民を以て成るべき文け容易に出来得る文け便利に智恵が  
 開かざる最便最簡の文字が工夫し奉明するものなきや否や願  
 くは斯る大哲人大傑士はあれよかし出てよかしとは余が十有餘  
 年来の志願希望なりき然れども遂に余が意を得たるものあるな  
 し是に於て自ら不文短才を計らず茲に愚見を草して以て天下の  
 公論を聴かんと欲する所以なり  
 一余は故に余が主義の如く本篇を綴るに當りても成るべく漢詩の

如きが避けんとしたれども彼我を評論するに就て執ひ例証せざ  
 るを得ざる所は之を引用せりいたつらに文面を飾らん為に非る  
 なり世上の廣き或は是が為に不通の所あらんも知り難し然れと  
 もそは何れ江湖の諸君に使用する時ある可きなり

一余は若し東亞の諸君にして余が新字より一層簡便の文字を奉明  
 するものある時は余は喜んで而して之に賛同すべし然れども斯る  
 奉明は突として出来ざるべし好し出来得るとするも甚だ実行し難  
 きが如何せん然らば則ち余が主唱する所の新字を便とするもの  
 天下の大多数ならんと余は余が信する所によりて断言するが辞  
 せざるなり

然れども余は本風を以て新字論を詳説し終りたるにあらん尚ほ  
 新文字の實行上に就き幾多の意見と更に細論せざるべからざる



点あれば世上の諸賢も此種の論説に就き余輩に注意せしめ余輩と共に研究せられんことを

一今余は此緒言を結ぶに当り特に諸君に希望せざるを得ざる点あり他なし新文字の使用法是れなり新文字は一見する所只禽獸魚貝草木金石水の如き名詞にのみ適する様考へらるべし然とも能く之に勉強する時は教日を待たずして形容詞感嘆詞等頗る有用的に昏き顯すこと易々たることをりされとも一時に全般の改良よりは兎に角其名詞文け新文字を採用するも果して幾千個の漢文字を除き得べし故に新字を採用せんは必ず先づ名詞より改革し名詞より採用せられんこと希望に堪へざるなり是れ余が所論は頗る急激なれども之を一括すれば新字を造りて而して漢字を大刪減し漢字を大改除して而して日本の文字日本

の國語を保持し而も簡便実用の文字たらしめんとする一片報國の丹心に外ならざればをり諸君幸に之を諒せられんことを

明治三十一年二月

白鳥 鴻 幹



# 新國字論 目錄

第一章 總論 一

第二章 文字上に於ける世界の大概 二一

第三章 文字上我國學海の不幸 四七

第四章 文字上我が國家の内情 七三  
○財政家○實業家○政治家○教育家等の小言

第五章 文字上我國學者の意見 九三  
○嘉納學士の意見○實業家の意見○井上博士の意見



第六章 羅馬字を採用するは如何 一一一

○羅馬字の二大特質○漢字の欠点

第七章 假名文字を専用するは如何 一三三

第八章 新文字の主義 一四一

第九章 新文字の活用 一五一

○新文字の作例○新字の効用

第十章 新文字が現在及未来に於ける實用上に  
關係する点 一八七

○甲乙丙丁等の意見○坪内學士の見見

第十一章 新字の國學上に関する点 二〇三

第十二章 新字の國文學上に及す可き影響 二二一

第十三章 新字が國俗の過去に對する關係 二三一

第十四章 新字の他の点に於ける得失及速記號と  
の優劣比較 二四三

○新字の字形に就て○文字上横視縦視の利害

○新字の漢字に對する得失○新字と速記號

第十五章 文字上魅力及勤學に関する点 二五七

○日本人魅力の漸減○児童の教育に就て

○人間知識の廣狹ある点

第十六章 結論 二六九



第一章 総論

嗚呼实用々々此の風吹て何ぞ止まざるや此の風吹くところ自國の制度を棄て、此の風吹かゝる甚い哉洋風の盛あるや此風到るところ宏めて此風まなびかゝる甚い哉洋風の盛あるや此風到るところ宏



消えて文明轉つる燕尾服とある世の変遷不うたてけれ

束髪はイヤ馬糞は似たり洋服はベケヤ獸形ありと喋々排撃せ

田で肩拭開化のバケ物然たるありキヨン醫で帽子開化の冠かぶせ物たらざるを得ざる時節とはなりにけり

然ども此風たるや目撃し得可きものゝあらざること猶ほ真に空気の流動せしものゝ如し故に我々東亞の國民はアツケラ漢の大



るん者として只其の外面は驚き曰く洋風如何は盛あるも是れその外面のみ彼が長は傲して以て軍備彼が利益を以て鐵路を作らば世は豊る汽車の煙も慶雲あるべしと

世間知らずの高枕は遂に益々東亞の劣敗を招かんのみ我々として彼が文化や彼が富力は心酔するよあらず彼が長技彼が軍備は愧たるよあらず只我が東亞の我々が考察力と活用力は乏しく常に西歐は屈下するを慨せざるのみ苟も東西文明の差強弱の違を探究し来らば豈に只彼が仕上げたる所の有形物のみをらんや必ずや彼が智識を活動し彼が衆智を活潑ならしむる所のもの多くんばあらず若しこれこれを察せずして而して徒は其の外形を摸せば我が東亞の将来を如何乎せん

事物の改良文物の発明あきを以て世界に有名なる東亞の我々は

如何にして世界の大概文明の速力に應じ得可きや若し富國強兵未だ貧弱の結果を見て教育の關係する所にあらずとせばイザ知らず苟もその然らざるに於ては教育上に至大至廣の關係を有せる文字すなはち字形は豈に是れ微物として冷々看過することを得んや釋如も孔子もアキラメねばならぬ時勢は將た我等を捕へんとしつゝある我顧みむ我々は何時まで安閑として一日に一字一記し一物に一字一附し千事に千字萬字に万苦すること可し得べきか我々は我等すへき子弟我等の憐むべき一切の衆生をして此の苦難を免れしむること能はざる乎

何とてして西洋の教授の如く綴字の方法を採らしむること能はざるが因習の久しき俄に漢文字を廢改すること能はずんは責めては名詞丈けにても一部分なりとも綴りの方法を採らざる可ら



す一日に一字を記せしめんす。数字或百事に活用せしむるの  
法を採らずんば我々東亞の國民が無氣力なる人智を如何し  
て活動せしむることを得べき乎

夫れ一葉の動きも以て時を知るべく一匹の絹となるも元とは虫  
たる或知らば一人一夜の苦みも万人よして萬苦ならず也然らば  
一字を減じ一便を與ふるも豈に軽々たることならんや况んや十  
字を綴り十個を減するに至ては唐に一人一個の便のみならんや  
百字を減し百便生じ一字を減すれば萬便たるに於てをや

我々が此の一挙手一投足の改良に区々躊躇しつゝある間に彼等  
は如何すべき不彼の赤鬚子彼の活字子は巴拿馬を割り西伯利亞  
を通し千里一足万里の長風に乘じて葦原も蟹文字の世と化せ  
しめ韓兎をワキ挟みて清ちやんを駈らんこと鏡に懸けて見るが

如きにあらずや我々の子弟が漢文字をうなりて一訛一忘一得一  
失一つある間も彼等は何を為すべきか燕すら電信網渡りの奔  
明あるに我々東亞の民が我が鼻の不便は氣附かずんば忽ち  
洋風の吹くところとなりて碧眼子の脚下に頓首閉口せんこと火  
を見るよりも明白たるにあらずや

嗚呼便利々々实用々々此風吹て何ぞ止まざるや此風吹くところ  
我が教科書は年々簡易となれり此風来るところ我が社會に言文  
一致体あらはる甚しい哉洋風の威なるや此風向ふところ遂に我  
漢字を大改正せずんば止まざるべし我々の新文字を振作せしめ  
ずんば止まざる可し

抑も繁文を省き冗縷を去るは当令識者の苦心する所にして書路  
の諸士亦こゝに着目しつゝあるにあらずや然るにヒトリ我々の



漢字は此撰に當らずんば果して如何不や空々たる大氣は人目に觸れ難く大々たる鴻益は人々の察し難きが如く或漢字に非常の減裂なる点あるを察せずんば未だ以て繁文簡省の本旨を得たりと云ふべからず如何に漢文字は不便よして如何なる方向に入りつゝあるや是れ我々の考察せざるべからざる最要点に非ずや我が漢字は世界の学海に浮びて如何なる最後を遂くる乎之を音聲字に比して其優劣如何不や世界の大概は如何なる傾向なるや而して我内部の有様は如何不や東亞の空氣は何が爲に沈滞し何故に腐敗の状あるや是れ我々の討究す可き第一点にあらずや聞かずや蠢々たる未開の國情は事々物々不便の風に吹かれ物々事々不用的に傾けるを嗚呼不便々々不用々々此氣東亞の天地に満つて何ぞ去らざるや

此氣の存するところウメホレ根情つよく此氣の在るところ四億餘萬の意氣弱く四千餘萬も活潑ならす甚しい哉東亞の迂るや此氣の到るところ四萬九千九百九餘の文字あり此字の向ふ所も迂闊千萬たらざるを

聞道らく支那近代の英雄曾國藩は其曾て長髮賊を討つに當り支那舊来の兵式兵器其用に任へざるを悟り自ら長江に臨みて水軍を訓練し兵船の如きは西洋形を折衷して軍の實際に悠々として製造し終に之が爲に勝利を得たりしが後ち亂平きて支那の宰相となり兵器兵式を講せんが爲に兵學校を建設すに際し地の権官中軍一々西洋より教師を備聘すへき旨を勸告する者少からざりしに國藩頑然之を聽かず不便を極めながら自國同志の研究を專にせしとか也



夫れ國藩は自國國民の自主心を擁護せんと欲して外國教師招聘の事をすり拒みたるは何が先には勇断実行して後には未練至極のことならずや彼は彼が國民は如何に頑迷如何に迂闊のものたるや否よ就ては全く考慮せざるもの、如し彼が國民は實に不学の盲目病に罹り頑迷の慢性症に當り居るにあらずや然に之を療治するに只一滴の砒劑を用ひ而して可なりと為したるは何たる偏見短識不や宜しく其の諸制度より大改良一次に外國の教師を僱聘一次に漢文字を改良せざる可らざるにあらずや是に反して我が日本は其外面上に於て頗る急激の改良劑を用ひ漢字の不便はワラミの様な文字で下落したるのみならず葦原も蟹文字の世と稱け横行の果は着物の色まで蟹の色となり太平洋の宴會の燕尾服を面白けれ世の杞憂家をして之を見せしめば

是れ世の少年をして西洋崇拜の風に心目を導き其自主独行の精神を萎靡せしむなんと非常なる小言あるべけれども我々は却し其謬見たるを察見して竊に祝せざるを得ず何となれば我國に漢字の不便を鳴らし羅馬字を採用せんとまで主唱するものあるは寧ろ改進力の盛大なるを証する所以にして是等の改進力を有する活字者は幸ひ我國よ之れ有るが為に未だ國民中非常の分らず屋多々あるに拘らず稍々世界の風潮に倅ひ得ればなり嗟呼我々は如何にして東亞の慢氣を一洗し得可きか如何に如何の主義如何なる方針を採るべき乎而して我々が採らんと欲する所の文字は果して如何の利用將た効力ある乎之を今世に行ひ得可きか如何ん是れ我々の共々與に研究せざるべらざる所ならずやいかん



あ、便利々々实用々々此風吹き来らば不便の雲霧罷散して便利の天地たらん此風到らば沈滞腐敗の氣去りて新鮮且つ活潑なる社会を見ることを得ん甚しい哉文字の人智に相関するや人智の文字に關係するや此風吹くところ遂に我國の文字に左の七大疑問を生出せしむ七大疑問とは何ぞや

- 一 文字上世界の大概は如何
- 一 文字上我國内面の状況如何
- 一 文字上我社会の狀態如何
- 一 文字上我学者間の意見如何
- 一 羅馬字及假字採用は如何
- 一 新文字の主義及効力は如何
- 一 新字に關する利害は如何

噫便利なる哉实用なる哉此風吹くところ何ぞ奇なるや此風吹く所遂に我が富士の白妙他に染まぬ國の文章をも羅馬字に化せしめんとするに至らん乎此風行くところ果して羅馬字を以て最便と爲す乎將又かあゝの会乎新字の主義か甚しい哉洋風の盛大なるや此風到るところ如何なる文章如何ある文字が出現するや此風来るところ洋風漢文將た新款請ふ之を考察せられんことを  
夫れ一國の興るや必ず興るべきの原因あり其の亡ぶるや亦必ず亡ぶべきの原因あり實に國家の興亡は偶然にあらざるなり而して國家盛衰の理は就ては学者間種々の説ありて一定し難しと余が視る所を以てすれば國家の盛衰文野の分る、点は大畧左の要素の活動或は普及すると否とに由るものとす

## 第一 教育上の要素



- 第二 経済上の要素
- 第三 軍事上の要素
- 第四 運輸上の要素
- 第五 法制上の要素

右の要素の内尚増減す可きものある可しと余も我東亞の如き國風に於ては最も教育上の要素に着眼注意せざる可らず何となれば従来我東亞の採る所の方針を査閲すれば支那の如き大韓の如き一に西洋の外面に驚き彼が内部を探究せずして只其外部を模擬し大に保護し大に製造し大に軍備を飾らんとす而して是れ猶埃及の失敗土耳其及匈加利の失策を再演するが如し而るに我日本たる我々も亦動もすれば外力に屈從し外交に失し内政紛雜に朝野の識者をして額を撫て手に汗を握らしむること幾何か茲

に因源せずんばあらざるなり

由來東洋人は直接的政略を好み間接的培養を知らず恰も彼の魚學なる園丁が其花樹ヲ培養せんとして肥料を其根下に注ぐが如き而已いつくんと知らん樹木の肥料は根部に注ぐ可きものにあらずして其末端即ち毛細様の部に肥料を吸収するところあるを然らば其根部に注かんより其周囲の土中に注入せざる可らず今東洋流の政治家教育家実業家経世家等を見るに往々斯の如し豈に慨せざるを得んや豈に嘆せざるを得んや

蓋し運輸の便を計り大に製造工業を保護し大に軍備を擴張する也固より以て必要件たるや明かなり然とも若し其國民にして不便の文字迂濶の形字に耽ることあらん乎是れ已に其精神をして迂濶字に浸染せしむるが故に假令朝に英米の義奉に與り暮に露



佛の積成を得るも国力の進むことなきを如何乎す可き或は万頓の巨艦を備へ或は隱頭架砲を設置し或は北備南防汲々として痛心するも實力の民活智の友の伴ふものなきを如何乎せん而して又如何に国力を注ぎ民力を統るも朝には實用新謀を見て暮には國民日報を翻し而して外交の手先き政府の後楯たる活潑なる國民の最大多数に依らずんば百万の兵士千艘の堅艦も何の用をか達し得べきか是れ猶ほ無羊に羊冊を持たしめ小兒に正宗を弄せしむるが如く却て其滅亡を招かんのみ然らば則ち東亞の如き未開貧弱の國を治め是女して世界の雄邦たらしめ之成して四海を睥睨せしむる方法自ら明白ならずや

知すや滔々たる天下の大勢は電千里便利の風に吹かれて英の噂々独の浮言忽ち東亞の社会にあらはる、こと左の如きを

倫敦泰ノ報ニ拠レハ北清日報ノ傳ヘタル露清秘密條約ハ大ニ倫敦政界ノ耳目ヲ驚動シ議論八方ヨリ起リ皆以テ最大事件也ト為セリ或新聞ハ之ヲ虚妄ナリト信ゼリ「スパクテート」ハ以テ正確ナリトナレ且曰ク何レノ國モレカク巧シニ傲慢ナル清國ヲ保護セント試ミタルモノナレ露國ハ悉ク其目的ヲ達シ鐵道ヲ吉林ニ敷設スルヲ得其軍隊ヲ以テ滿洲諸停車場ヲ警備スルノ權ヲ得清國ノ為ニ旅順ノ砲寨ヲ築カントス露國ハ全ク滿洲及ヒ遼東半島ノ軍事上ノ管轄權ヲ握リタルモノト謂フ可レ

「スモクテート」ハ更ニ曰ク斯レ條項ハ英國モ寧ロ日本ヲ脅スモノタルナリト「チャールレス」氏ハ曰ク此條項ハ實ニ清國ノ北部ヲ露國ノ脚下ニ置クモノナリ云々

「チャイト」ガゼットハ膠州灣事件ニ付記シテ曰ク恭親王ハ該事



件ニ就テ李鴻章ト種々議論の末慨然トシテ曰ク今日ニ於テ為  
 之キノ策ハ唯北清ヲ露國ニ譲リ都ヲ南京ニ移シ英國ノ下ニ  
 新政府ヲ建ツルニアリト去レ氏李ハ之ヲ拒シ斯ノ如キ手段ヲ  
 取ルヨリモ寧ニ死スルヲ勝レリト語レリト

此の如く四億餘万の大々國が一億万の露又ハ尚ほ小なる獨國よ  
 翻弄せる、出来事は日々に東亞の人民が頭上に落下しつゝ、ある  
 も國よ文育の民多ぶく社会に実用力の分子乏しければ如何に懐  
 慨々々切齒々々に堪へざる最大事件あるも如何に政府が痛心し  
 如何に学者が悲憤浩嘆するも四億救千万の大多數が無感覺なら  
 ば争か國家の振興を望み得べけんや然らば則ち此の危急存亡の  
 東亞に拙息して正に大々的敏活の大活劇を為さざるべからざる  
 大責務を有する我々は争か不便迂闊の文句を呻吟し不生産的の

漢文字に一刻千金の時日を浪費することを得んや況して未來益  
 多量愈々甚なる我等の同胞子弟以て此の難屈文字にふけり  
 自ら不活潑の男子考察力なき子女となるを袖手傍觀し得可らざ  
 る或や而して我國今日の教育は以て泰西諸國に對し果して能く  
 其智識を廣めつゝある事之を廣め之を普及ならしめんと欲せば  
 之を便利にして是を実用的ならしめずして將た如何なる方法を採  
 用し得べきか

試に古今東西の偉人傑士良民金傑等が為すところを見るに或は  
 深く文字を知らず又右目に一丁字無くして能く身を賤奴より起  
 し或ハ鉅萬の富力を致し非常の善行を遂げ異帝の大業を為して  
 後世子孫に尊信せらるゝもの多々之れ有り是等ハ必して漢字を  
 講習して得たりとしたりにあらば玉篇字典を勉強したるに非ず



只彼が行ふ所言行は正味文字は骨汁一ぱり粕たる無類正味の實際学を實行したるに過ぎざるなり

夫れ果して然らん乎然らば普通教育の主義も甚だ明白ならずや只簡便の文字を以て恒産恒心を有せしめんとするに外ならざる一レ字は漢政を兼ね道は三聖の正統を得て又外典に通下巻くときは寂々として千仞の淵に潜むと虫も舒るときは陸離として万文の奇談を吐かんとする所謂英雄的の卵ハ寧ろ東亞の特色として斯る人傑幾百人あればとて一般國民が無学よて恒産なきもの多ふければ如何よ其の個人的の動作は痛快感嘆する所あるも是猶ほ暗夜の一燈火萬緑草中一紅花たるのみ之を教理より推すも實力上より打算するも未だ以て優邦たり強國たるを誇るに足らざる一レ寧ろ学はアイウエオいろはに新文字を兼ね道は赤心一

途として又外國語は通下術は起業の方法を知り技は興産の奥を極め巻くときは政々として家業事務め舒るときは踴躍して國務に服す所謂國家の良民よして社会の最大多数を占むるときは安んず國家の元氣勃興せざらんや而して将来我普通教育の方針を以て前者は模せしめずして後者は採らしめざるべからざるや豈よ明かならずや

ア、便利々々实用々々此風吹て何ぞ止まざるや此風吹く所單よ英服佛帽のみよて止まらんや此風至るところ豈に島田で肩掛開化のばけ物然として止むべけんや此風吹くところ遂よ我漢字を大改正して活用自在輕便簡易の新文字と為らしめずんば其れ災一して止まざる一我か東亞の好男子は此便風よ抗せず之を採り是よ乗じて千里の地を開き萬里の横行を計らざる可らざる也

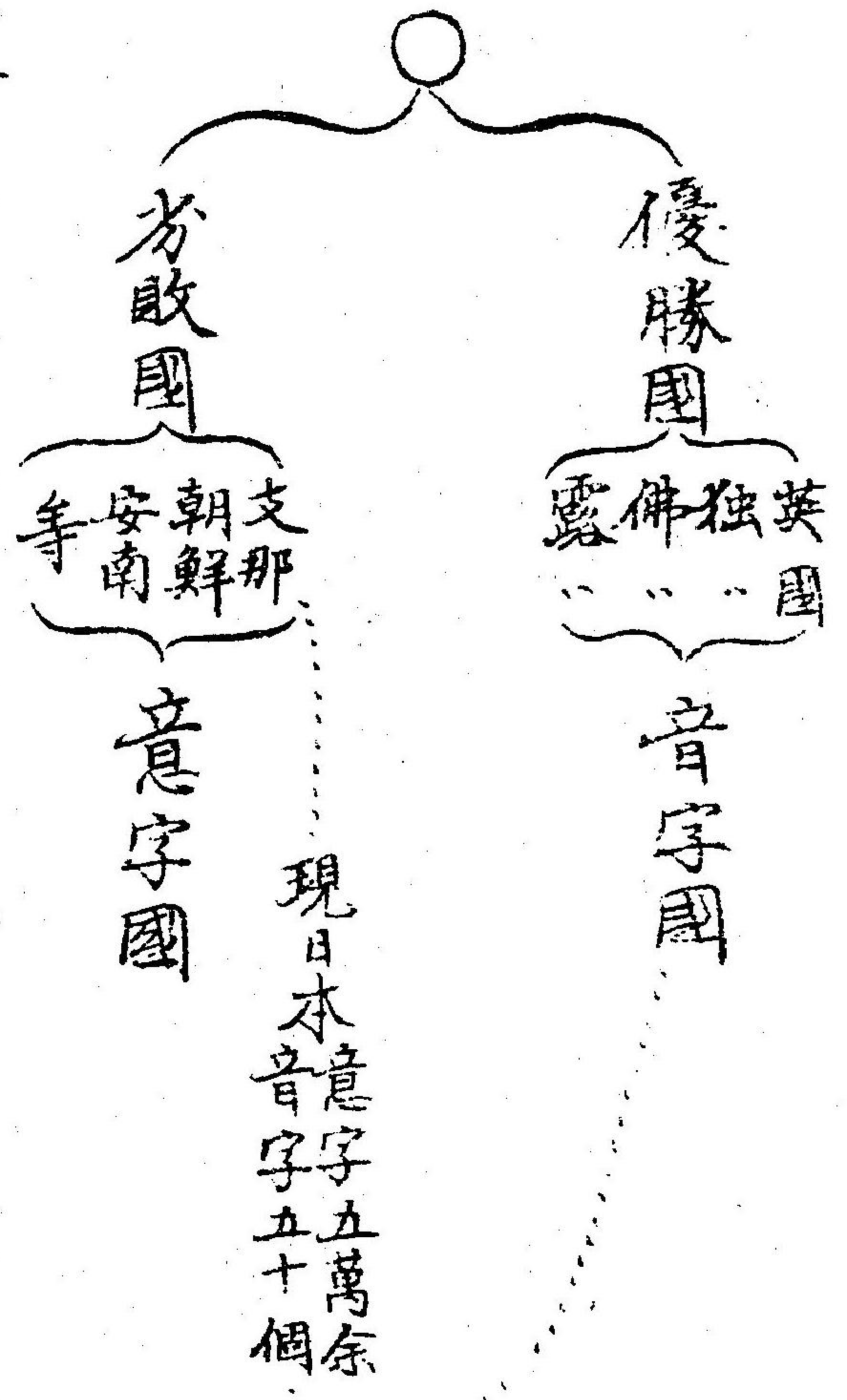


第二章 文字上に於ける世界の大概

方今世界の文字或區別すれば種々ありと雖も蓋し二大別は過ぎ  
 ず而して一はスナハチ音字又ハ聲字にして西洋の「アルファベット」  
 我國の五十音これなり他は即ち形字又は意字にして其本家の本  
 元は支那なれとも朝鮮安南及我日本國民も此象形字を貴はざる  
 は無し然るも此二文字の優劣は陰々冥々の間に其國力其民度と  
 關係せざるはなし故に我々は文字上世界の大概は如何の位置と  
 ありて如何の有様とあるやを討究するの必要なるを感せざるを  
 得ば余は好んで茫漠たる説を爲しものにあらば余は例を世界の  
 活歴史と求めて以て諸君の判断を請はんと欲するなり  
 蓋し宇内の大概は形字の勝利半聲字の劣敗か諸君の賢なる已し  
 夙に洞察し居るならん然れども我々は精細の注意活潑の眼光を



以て御判断あらんことを望まざるを得ず幾多の統計許多の事實は常に我々をして東亞の劣弱西歐の優強たる嘆を為さしめつ、あるにあらすや請ふ左の畧畵を一覽せられよ



此の如き優勝と劣敗は何の爲に生出したるや是れ我々の第一に廣問せざるべからざる才一点ならん

- 軍備力……………軍備ハ何ニヨリテ堅キヤ……………
- 奉明力……………奉明ハ何ノ爲ニイヅルヤ……………
- 文明力……………文明ハ何ニヨリテ生スル乎……………
- 教育力……………教育ハ何ニ依リテ得ラレ、ヤ……………
- ア、文字力……………文字ハ如何ナル文字ナルゾ……………
- 音字力……………音字ハ何ヲ以テ然レ可キヤ……………

是れ簡便にして実用的の文字なるか爲にあらすや文字簡便なるが故に教育の普及速にして文明の思想を養ひ易し文明の思想を養ひ易きが故に制度と文物の奉明益々盛大愈々活潑にして奉ては軍備となり止りては衛生となり勤けは通商貿易進めば国力膨脹となるあり故に彼の國民の思想常に新鮮にして學者の考察力も、非常によし



それ然り然らば其の所謂優勝國の文字とは如何なるものぞや彼が家屋の如く宏壯にして雄麗なる乎彼が軍備の如く雄大且つ銳利なる乎否々交して然らば彼が道路の如く垣々として砥の如く何人も走り得べきかぬ一故に彼を學び彼を記臆せしものよ問はる必也曰はん

甲字は乙字と結び乙字ハ丙字ト綴り相関連相活用レテ日常ノ語トナリ文トナリ物ニヨリテ字ヲ作ラズ字ニヨリテ物ヲ書シ應用自在千言萬句湧クガ如ク流ル、ガ如レ世界ノ事物ヲ記シテ不足スルトコロナレ故に一人ニツキ一寸ツ、ノ便トスルモ萬人ニ付千便且ツ萬利相積ニ相普及レテ大化彬々タル大國ヲ生シ威名赫々タル強國ヲ為スニ至ル蠻國ヲ民仰キテ以テ眞ノ結果ニ驚キ其因ヲ察セス見テ以テ欽羨セザルハナシ

ア、音聲字國ノ民ヨアルフベツトノ民ヨ諸君ノ賢ナル理ニヨリテ言葉ヲ作り言葉ヲ以テ理ヲ推シガ故ニ文筆ヲ知ラサルモノト雖モ文字ヲ知り易ク民益々衆明ニシテ學者益々進ニ実理ト実學ヲ主トシテ文字ニ耽ルモノ少ク活々相寄リテ國家ヲ為シ爭テカ富國強兵守内ヲ壓踏セザランヤ

優勝國の文字をばち文字の優勝は斯の如く利用あるが故に之を以て形字國の事物を記載するに自由自在ならざるはあし

- 清京 北京 PEKIN
- 朝鮮 京城 KEIJIO
- 加藤 清正 KATO KIYOMASA
- 日本 東京 TOKYO
- 小野 小町 ONO KOMACHI



日本 青森 Aomori

唐に和語清語ヲ記し得るのみならず之を以て我國の雜文ヲ綴るも左の如し

Chogen no bu ni mo aru

Kare wo shankam Seyo

此の文此の語たるや字音学上より云ふときは欠点亦まにあらざるべしと雖も免は角洋字を以て和文を綴り得らるゝこと可なりと謂つ可し

斯の如き文字や文章攻サラ々々と讀みて其意味を解するに至るまでは茲年間勉強せざるを得ざる乎必ずや小學校の児童と雖も兩三年間の勉学よて十分理解あることを得るに至らん豈よまた螢火と雪光よ依り苦学憔悴たるの奇談を要せんや

英独ノ兎  
童二千又  
二十時間  
ニテ普通  
ノ昏籍ヲ  
讀し得ル  
ト云ヘリ

優勝國の文字は案外は簡易よ一一人の目を開くより百人の目を開くは適し百人の目を開くより千人の目を開くに適する平易の文字たることは已に察知せり然らば斯の如き文字を以て詩文雜報或ハ論説を作りて日々發行するところの新聞紙等は如何ぞや如何程文明を以てほこり進歩を以て鳴るゆ或ハ普通學校の數及生徒の増加することあるも若し社會の耳目浮世の燈台たる新聞紙の發行減からん乎必ずや其民無氣力且つ不活潑よして未開化の風習を脱離せざる唯一の証拠をれば請ふ之を聞まほし余は此の烈しき詰問に對し政米の社會が需用する新聞紙發行高の統計表を掲記せんと思考せし折幸い米國文學博士松本君平氏か肩したる政米の新聞事業と題する一文を通讀せしことありたれば其大要を記して以て政米の新聞紙が如何に盛大なるや否や



を証せんと欲すスナハク

今世紀ノ文明世界ニ於ケル尤モ偉大ナル勢力ハ火薬力ニモアラズ蒸気力ニモ非ズ又電気力ニモ非ズ實ニ思想ノ自由ゾカシ今世紀ノ文学ハ其華ナリ即チ是有ルガ故ニ野蠻ノ獸力ハ其爪牙ヲ隠シ宗教ヲ迷夢ハ醒サレ專制君主モ屏息スルナリ若シ是無カリセハ世ハ只元ノ暗黒ノ昔ニ皈ルゾ必然ナレ輓近新聞事業ノ發達ハ更ニ大ニ思想ノ自由ヲ促シ文明開化ノ精華ヲ開クニ至レリ

新聞事業ノ源ハ遠ク數百年ノ昔ニアリト云モ其全世界ヲ動かスニ足ル猛然タル大勢力ヲ有スルニ至リシハ今ヨリ數十年前ノ事ニ過ギズ而シテ如何ニ今日ノ世界ニ新聞紙ノ存カナルカハ昔人ノ夢ヲ夢ガモ想ヒ至ラザル処ナリ

世界ノ新聞事業ヲ通覽スルニ其尤モ發達普及スルハ欧米諸國ニシテ就中大勢力ヲ有フハ北米合衆國ニシテ新聞雜誌ノ數ニ万一千餘毎年發行スル号數平均二十億ニ上リ紐育ノ新聞ニシテ毎日四十万号ヲ印刷スルモノアリ以テ米國ニ於ケル新聞事業ノ發達ハ一般ヲ伺フニ足ルニシ

世運ノ進歩ハ斯業ニ一大動力ヲ与ヘ端ナク其ノ性質ヲサヘ一変ズルニ至レリ昔日世事緩慢ニ属シ人智開泰ノ程度幼稚ノ時代ニ有テハ新聞ノ事業モ重キヲ置カレズ其注意スル処ノ周圍ハ僅ニ一郡一國一府ニ過キ之然ルニ今代ニ有テハ新聞事業モ随テ茲ニ一新紀元ヲ開クニ及ヒリ蒸気力ハ世界人類ノ交通ヲ容易ニシ地球ノ東西南北ヨリ驚ク可キ奇聞ヲモタラシ電信ノ如キ宇宙ノ現象ヲ一日ノ間ニ遺ル限ナク報スルヲ得ベク電話



ノ便ハ教百千里ノ遠隔セシ地方ト自由自在ニ談話スルヲ得可  
ク以テ一瞬ニ教千里外ノ珍事ヲ報ス可シ其耗困ハ廣大無辺ニ  
レテ其集ム一キ材料ハ莫大無量而レテ是等萬般ノ諸聞ヲ消ス  
レテ一種ノ新聞紙テフ物ヲ創ル極極ニ亦又奇奴不思議トモス  
クハク一時間ニ三万号ヲ印刷スルハ容易ノ業ニレテ其新聞ハ  
太陽カ地球ノ表面ニ昇ルヲ待タデ世界ノ各処ニ肉テ配附セラ  
ルニ云々

夫れ欧米の文化は斯の如く複雑にして新聞紙の発行高も多ふか  
らむるものは独り文字のみよあらざるや明かなりと雖も文字  
よして簡易ならざるは争か衆智を競争せしめ安ぞ廣大無教ノ購  
読者を求むるを得んや故に欧米の如き文字は器械中の極極輕便  
中の輕便よして目今のところには世界を横行するに足る優

勝の文字なりと謂はざるを得ず

是に反して我が東亞諸國の劣敗は何の爲に出表したるや

貧弱乎……貧弱ハ何ノ爲ニ出表スルヤ……  
未開カ……未開ハ何ニ因リテ存スル乎……  
無教育カ……無教育ハ何ニ依リテ然ルヤ……  
文字難屈ニレテ不便ノ爲乎然ラバ形字ナラスヤ……  
形字平音字カ形字ハ何ヲ以テ不便ナルヤ

意字と國字と一形字を使用するところの學者ハ概して考察力よ  
乏しく其民文育よして活用なきは何ぞや是れ形字は難屈ニレテ  
無用的の文字なるか爲にあらざるや文字不便なるが故に教育の進  
歩至て緩慢よして未開の志望に陥り易し未開の志望に陥り易き  
が故に制度の改良なく文物の泰明あることなく優勝の國に對す



れば益々衰退し愈々不活潑よりして一二廟堂の英傑が一心不乱に  
盡瘁する外面上の軍備も進みて勝つことなく退きて衛生の方法  
たゞす動けば侮られ止れば腐敗し易く其國民の思想常に不潔に  
して學者の考察力も僅く詩文も止れるが如く非常に薄弱ならざ  
るなし

それ然り然らば其所謂未開國の文字活用法は如何ぞや彼が家屋  
の如く汚穢紛雜なるや彼が軍備の如く無益苦茶なる乎否を交し  
て然らず格も龍翔風舞の如く華麗壯大たるところ厳格堂々たる  
所あり故に我々一般國民の如く自營自治よりして立ち日々の事  
業に追はるゝもの是は入れは迷ひ易く學び難く其奇形は眩し奴  
態は惑ひ或は苦悶し閉口するの他あり故に彼を學び彼を記憶せ  
しものに問はば必ず曰はん、

甲字ハ乙字ニ用フ一カラズ乙字ハ丙ト異ナリ物ニヨリテ字ヲ  
作り字ニヨリテ物ヲ辱セズ丁字ハ丁ノニ成字ハ成ノニ活用自  
在ナラズメ僅ニ應用スルニ過ギズ一人ニワキ一寸ワ、ノ不便  
利ハ万人ニ於テ千堆万害アリ彼ノ一小蝶穴ヌラ遂ニ千丈ノ堤  
防ヲ破ブルヤリ豈ニ戒メザルベケンヤ漢字國ノ友ヨ形字國ノ  
民ヨ諸君ハ理ニヨリテ言葉ヲ作ラス文字ニヨリテ語ヲ作ルヲ  
主トシ教エ文字ヲ知ラスンバ語ヲ知ラズ語ノ解シ難キか故ニ  
学理ト実地ト縁遠クク民益々愚ニシテ學者益々迂ナリ迂ナル  
か故ニ迂々相寄リテ國家ヲ為ス争テカ文明ノ思想ヲ養ヒ富強  
ノ実ヲ奉クルコトヲ得ンヤ

未開國の文字すなはち文字の考致ハ斯の如く不便不利あるが故  
に之を以て音字國の事物を記載するに迅速不自由間合せのな



らざるは無し

英京「ロンドン」 龍動或ハ 倫敦

米京「ワシントン」 華威頓 或ハ 和真頓

露京「セントペートルスホルク」 聖彼得堡

斯く地名ですら其實音の實地を言ひ顯し難きのみならず甚しきに至りては土國を土の耳其と鼻「ヤルギ」を白き耳の義と鼻し「ホー」が「ル」を葡萄の牙と鼻「ル」を羅馬の尼「ブラジル」を伯西兒と鼻するが如き我々をして轉た形字の不便を浩嘆せしめざるを此の不便且つ迂濶の文字を以て泰西史を譯さば四億万中之を解せるもの果して幾何ぞや

大英之開國亦然今聲名洋溢日長炎炎其工作之精勤商賈之富庶

甲於天下市舶揚旗出於四海政教之美為東西州冠民風物產徧布列邦可謂全盛之國矣然以百年一閱歷溯而上之時愈遠國勢愈微祖宗朝故事問之列邦鮮有能奉者名之不振有如是夫余觀諾曼的大尼薩索尼羅馬瑟爾的累朝興廢共成為今之種類考其先不遇教野人開闢茲土耳其當改土希臘羅馬兩大國興時此方風土罕有人知

か、る文字すなはち文章をさら々々と読みて其意味を解するに至るまでは幾年間勉強せざるを得ざる乎恐くは七八年間雪光の苦學を要せざるべからず而も昔日の如く單に習字と誦念のみよての学年を費して然りとす若し今日の如く地理学化学理学外國語畫学体操唱歌等を學ばしめば仮令拾ヶ年の歲月を費すも容易に通解し能はざるべし強て勉學せしむれば如何ある青年も



甚だ文弱いと、多病遂に肺病家出て近眼子輩出—其餘學問の及ぶ  
ところ慈父賢兄をして貧困の厄に罹らしめ社会より多量の悲劇を  
演せしむるあるは最も有勝の次才ならずや

嗚呼未開國の文字は意外に佶屈案外嚴格にして千人の智を併く  
より極く余暇ある士人百人の文才を出しに適せり百人の文人墨  
客次出しより十人の碩学迂儒を生出するに適するいと難屈の  
文字たることは已に之を察知せり然れども斯の如き文字を以て  
学校を盛大にし大に国力を注ぎて東西の学制を駕せば如何ぞや  
其詩文其論説を以て字内を睥睨し其奉行するところの新聞や雜  
誌を以て天下に普ねからしむること能はざる乎方今字内文化の  
程度は新聞紙の発行高よりしてトせらるゝに非ずや然らば其の  
学制の振作と共に我東亞に於ても驚くべき奉行高あるよあらず

や支那は方敷の後ありと蚤も着々こゝに見るところあり而して  
我日本の競々として長大の進歩と新勝の国力は突いて之をに  
らざるべし其全國小学校の数は既に或る四五千生徒の数は三百  
七八十万卒業生八年の四五十余万と推せり豈に文化彬彬々教育普  
及の至りならずや我輩は我が明治二十八九年度に於て此の盛況  
を見たるにあらずや然らば今年度前の卒業生も或は三十二三万  
或は四十四五万の歳々卒業しつゝあるにあらずや而して是等教  
育を受けたる民は概ね新聞の閲読者もあらずや況んや各小学校  
外に我文部省直轄の学校あるにあらず又各種の私立専門学校  
あるに於てをや故に我輩は我帝國に於ける新聞雜誌の発行高は  
少くとも北米合衆國に比肩し毎年平均二三十億万号の発行しつ  
、あること皆信用せざるべからず其人口其学制上より見るも是



れ推理の当然にあらざるや豈に敢て形字や意字の如何に問せんや  
我輩の所論当らずや否や請ふ之を問まほし

余は此の統計的又は推理的の難問に對し如何に答ふべき乎恐く  
は諸君の失望と我々の相互の汗顔を以て答へざるを得ざるを如何  
せん而して是は余我々は茲に精意なる統計表を掲げ得ざるの謂  
ひにあらざるに實に世界に對し面目なく聲字國に比していと、  
恥かきに至りなると是をなり

余は新聞紙の統計よりも寧ろ東洋の新聞事業と題する一文を草  
して以て諸君の猛省を請はんと欲す

今世ノ文明世界ニ於ケル尤モ痛嘆最モ驚クベキ珍事ハ東亞ノ  
人民ガ思想ハ不自由ゾカシ其隣國ガ踵ヲ倣レテ七滅シ聲字ノ  
民ニ壓倒セラレツ、アルニ拍ハラス依然トシテ單ニ外國ノ外

形ノミ摸レテ其真味ヲ悟ル能ハズ常ニ形字ニ心醉レテ野蠻ノ  
獸力ハ其爪牙ヲアラハン宗教ノ迷夢ハ深ク民心ニ感染シテ淫  
祠ト邪佛ハ甚ダ流行シ專制ノ權君側ノ奸非常ニワヨク世ハ只  
元ノ暗黒ニ一点ノ燈光ヲ添ユル而已ヒトリ日本ノ新聞事業ニ  
至リテハ輓近漸ク發達シ稍々思想ノ自由ヲ促シツ、アリト云  
モ其人民ニ不理解ナル形字ヲ教授スルヲ惜シケレ東亞ノ新聞  
事業ヲ通覽スルニ尤モ發達セルハ我日本ニシテ支那ノ如キハ  
四百二十一万八千四百一万里ノ面積ヲ有シ人口四億〇四百六  
十八万ニ上レリト云モ滔々タル世界ノ大勢ハ音字ト聲字ノ波  
浪甚ダ感ニシテ上海ノ濱香港ノほとりハ已ニ業ニ西字新聞ニ  
横行セラレ北清日報ヤ漢字新誌ハ甚ダ不活潑ニシテ其國土ト  
人口ニ比スレハ提灯ト重鐘ヨリモ尚由甚シキ差ナキニアラズ



然ニ日本ニテハ稍シ解シ易キ假字雜リノ新聞紙ヲ奉行シ更ニ  
 振假名ヲ添ヘテ成ル可キ丈ケ通俗ニ便スルガ故ニ近時頗ル長  
 足ノ進歩ヲ見ルニ至リタリト云モ如何セン日々奉刊スル所ノ  
 号數ハ北米合衆國ノ十合一ニ過キズ即チ我日本全國ノ新聞紙  
 一ケ年ノ奉行高ハ二億五放タルニ過キズ而モ是レ我國ノ洋人  
 居番地ニ於テ奉行セラル、コヤパンガゼツト新聞社及コヤハ  
 ン、メー、ル、コヤパン、ヘラルトノ奉行高ヲ合算シテ然リトス以テ  
 我國及東亞ニ於ケル新聞事業ノ一般ヲ伺フニ是ル一レニ億方  
 号ノ新聞紙支キニ非スト云モ之ヲ一ケ年間配附スルトキハ僅  
 々四五十万人ノ愛読者ヲ得ルノシ然ラハ四千数百万人中其ノ  
 新聞紙ヲ手ニシテかすカニ宇内ノ形勢社会ノ出来事ニ注意ス  
 ルモノハ單ニ四十余万ニ過ギザル乎一ケ年ニ四五拾万ノ小学

明治三十  
 年放殺  
 増加セン  
 未タ三  
 億ニ至ラ  
 ンナリ

卒業者ヲ出シ我國ニ於テ社会ノ耳目人智ノ案内者タル新聞紙  
 フ閱讀スルモノ僅ニ四五拾万ニ過ギザラントハ豈ニ奇觀ニタ  
 奇想議ノ國風ナラズヤ

夫レ坐右千百ノ群書ヲカザリ手ニ筆紙ヲ放タザル我々ト云モ  
 旬日新聞ヲ見サレバ智識ノ欠乏ヲ訴フルニアラズヤ況ンヤ日  
 々生産ニ當ククニ而モ最モ重キ最モ大イナル一般浅学ノ人民  
 間ニ於テオヤ

嗚呼我國家我社会ハ未ダ大暗亦大冥ナルヤ半聵コタ半盲ノ境  
 遇ニアラザルナキ乎世運ノ進歩ハ天ニピラメク電雷ノ如ク電  
 撃雷攻シテ東亞ノほとリニ向ツテ年々撞キ倒サントシワ、ア  
 ルニアラスヤ彼ノ蒸氣力ハ世界人類ノ交通ヲ便ニシ地球上西  
 ヨリ南ヨリ驚ク可キ奇聞ヲモタラシ彼ノ電信電話ハ數百千里



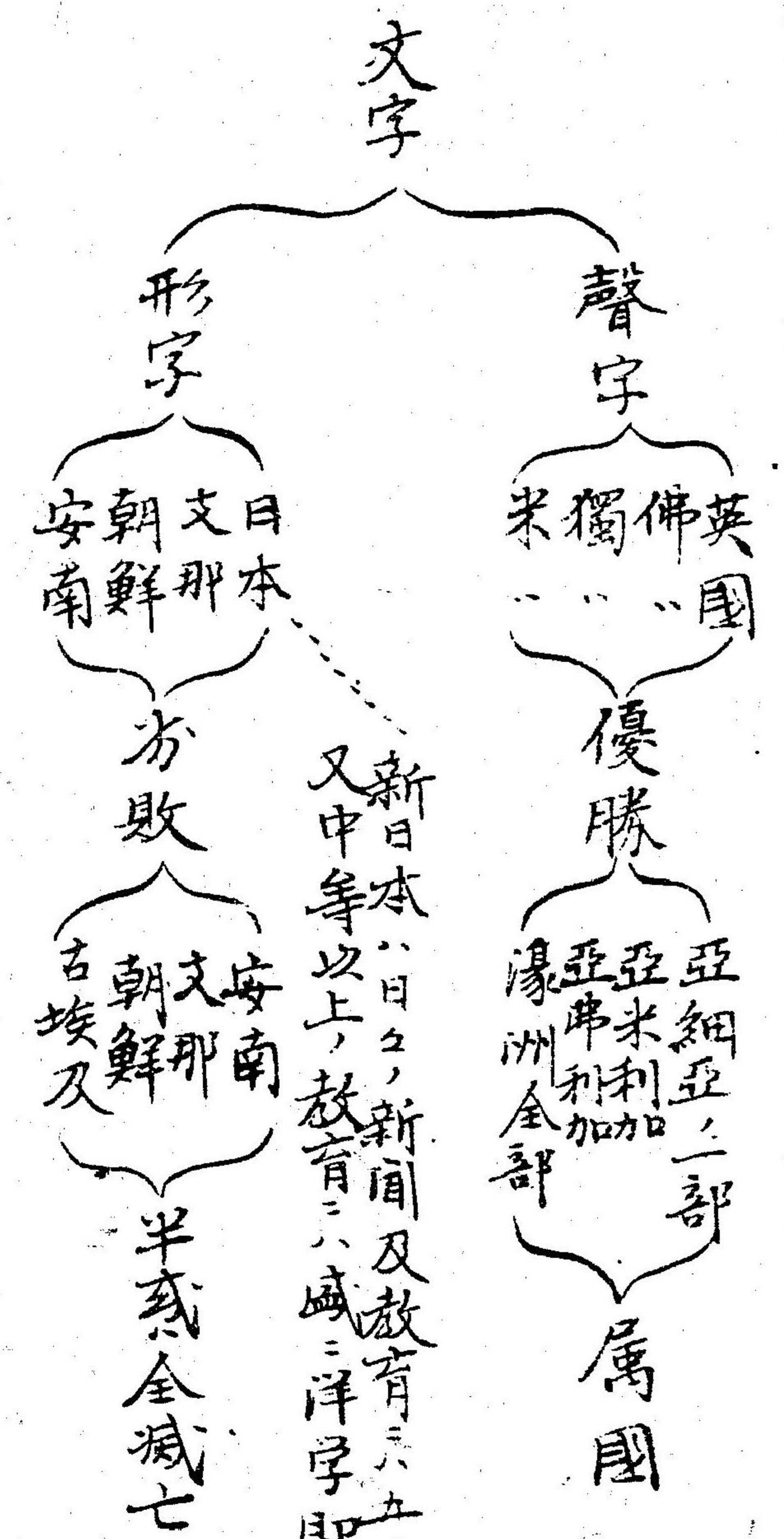
ノ出来事ヲ報シ其利便ハ廣大無匹其集ムルキ材料ハ莫大無量  
 而シテ是等万般ノ諸聞萬報ヲ料理シテ我々國民ニ供スル唯一  
 ノ珍食タル新聞ヲ我々東亞ノ民ハ如何ニシテいやはやナル乎之ヲ  
 食シ是ヲ消化スル働キナキヤ紐育ノ一新聞社ハ毎日四十万号  
 宛發行シフ、アルヲ聞カズヤ而シテ一時間ニ三万号ヲ印刷シ  
 フ、アルニアラズヤ我東亞ノ民ハ如何ニシテ迂遠無氣力明め  
 くら無活用寒食子無教育ナル乎

抑も東亞の文化は斯の如く不進歩して人民未ダ未用の進路を  
 タドリ新聞紙の発行高彼が如く少教なるハ單り文字のみにあら  
 ざるや明かありと益も文字にして難屈ならば争てか民智を開き  
 社会の衆力國家の衆智を用奈セしむることを得んや故に東亞の  
 如き文字は方今の世界に於て不便中の不便無用的の未用文字に

一到底東亞の國運を以て劣敗の方向ヲ導くものなりと謂はざ  
 るを得ず然るに東亞の教育家は徒に高肉の議論ヲ走り人の心意  
 は全く境遇と經驗とに依りてのみ作らる、ものどして立論する  
 へルバルト。ベインを稱し或ハ人は全く境遇と經驗とによりての  
 み作らる、ものによりずして元來教育して人と為るべき一定の  
 性も有するものなりとカント。ローゼンクランツを賛し相辯難相  
 討論して寧ろ却て我國文字の第一は改良せざるべからざる至  
 大至急の大問題を討究せざるが如きあらば何れの日にも國民の心  
 血を一洗し東亞の天地を開拓し得べきやベイン。へルバルト。カン  
 トローゼンクランツ。ムペンサー等の主義ハ如何程美にして如何  
 程有理あるや否は兎に角として諸君は左の畧畵を見て而して如  
 何に世界の大概は溜々として音字に傾きつ、聲字に吞嚙せられ



つ、あるを思はざるや否や



是に依りて之を見れば我々は我東亞の為に計るに進んで西洋の  
 聲字を採用せざるべからざるか將た退いて自國の聲字たる五十  
 音に新發明の工夫を為さざるべからざる歟二者何れか神速大果

断の所為を以て実行するに非ずんば我東亞の天地我帝國の前途  
 を如何乎せん四億救千萬の蒼生を如何乎せん



第三章 文字上我國学海の不幸

つらく東亞の社会を窺ひ我日本の学海を考察すれば我が國家内部の現况果して如何ぞや四面海波をめぐらしたる東方の蓬萊島に他人入れずの處帯を持ち来りたるが故に其安眠を妨害する者無かりしと雖も將來の日本も亦然るべしと断定し得可き乎一歩を進めて強國たらん歟所謂親子一家の間は他人種を入れて支配するの覚悟をかるべからず退いて小邦を保たんか尚ほ富國の術を講せざるべからず然るに我々の内面を見れば国内の上流は飛んで鳥の如く其下流は沈みて魚の如く帯る各々幾多の感情と其意氣を異し或は驕慢よりして迂濶なるもの或は生業よりウトク慷慨偏屈の氣に富むもの多し而して一般社会は未だ卑々たり屈々たるもの大多數を占む是れ東亞の特色或々の制度或々の遺



傳より来りたる結果ならん乎なれとも亦た我東亞の文字が直接  
 間接に相関連せし或る交りて之々にあらざるべし  
 東亞の大関たる我風たるや千古の昔より漢文字に汲々し而し  
 て更よ一步を進めて假字を奉明し又た明治の現代より洋を吸ひ  
 雜を聞きて調和したる國柄なれば随て彼の清韓に比すれば一倍  
 の長技や特色なきにあらざれども將來我が愛し可く頼むべき多  
 望の青年諸子が前途は變々たり漢之然として陰は陽は障害たる  
 ものあり故に我々は今より之を改進せざれば遂に帝國の一大  
 病根たらん富國の妨害たらん夫れ將た何ものぞや

將た

夫れ

何ものぞや

帝國學海之外形

号	學風	年月	人数	文字	盛衰
甲	漢學風	古代ヨリ	一万人以下	形字	漸次衰敗
乙	洋學風	近年	一万人以上	音字	今盛況
丙	和學風	古代	二三千人	音字形字	保守的
丁	雜學風	數百年	二三十万人	形字多量	盛ニ内ニ曰フアリ
戊	簡易風	今	四百余万人	形字	盛ナレド不便
己	改良風	明治廿年	一百名以上	聲字多量	漸次盛況
庚	無筆風	上古ヨリ	三千數百万人	無文字	中々盛大

以上の素より其の學ぶ所の深淺と字形に依りて假りに区別せし  
 是過ぎざれば敢て深く學理に入りたる分類はあらず而して事實  
 上は一人よりして甲乙とを兼ね乙と丁とを兼ねるもの多ふけれ



ども兎も角我社会の繁文よりて冗雑なるや單は文体と字形より因りて分類するも尚ほ且つ斯の如く滅茶なることを想察するに足るへ一況んや更は其至義等と求むるに於てをや我々は今俄りに此の区分に依りて其思想其感情の異なる点を指摘すれば如何に我国内面の紛雜多端よりて又操力の多量なるを察知するを得ん看よ我々の漢学風は其自己が習得したる漢字に拘泥束縛せらる、状頗る頑々たるものあり帝て聲色を励しと曰く当今漢学衰敗稗史小説逐年流行抑時運所致才敏之士見茲而起作為野乘稗史以鼓舞俗人俗事保為售名式利一舉兩得之策云々斯る文句や文言は恰も東亞の君子然として一寸高尙あるが如しと雖も其四角張たる漢文語を以て所謂普通人民を教戒せんとする其主意や如何の点に存するや我々の明治の開明は生れ多々学業せし社会は於ても千

百人中九百九十九人までは之を聞くも馬耳東風之を見るも解する能はざるを如何乎致さんや是れ猶ほ漢学者は説くにスペインサ  
 又はスクリンの学語を以てするが如きのみ当今開明の社会に於てすら亦皆此感覺を冷々看過するのみならず却て漢学者蔽の様を文字で瘦せたりなど冷評せらるゝにあらずや然るに漢学者益々激励して曰く何必改正倘或強改正必矯枉過直又生弊害一利一害物皆然豈独漢字而已哉今也人智日進人欲月熾道義掃地廉恥絶風上下交征利而國未危者幸矣云々  
 又看よ彼等和学派及洋学派は切りに其長を述べて我社会に吹き込まんとすれども或ハ甲乙戊等に妨けられ或は甲丙庚を解せず社会は冷々澹々として真に進歩の實を奉け難きこと多し一況や漢字國の普通学校卒業者たる簡易派は於ては西に向ひて可なる



耶東を走りて可なる欲五里霧中ニ彷徨するが如き人民果して幾  
千万人ぞや

我々は茲より簡易派と称するは実には漢字派あるにあらざる彼等は四年五  
年或は六七年間字問一或百千個の文字を記憶せしに相違なきも  
彼等は漢字の借屈なるが為より多年の勉学も未だ諸新聞の意見を  
叩くと能はず諸新聞も亦彼等の為より大ニ振り假名付を發行し  
以て彼等の愛顧を欲すれども彼等は其事物を丸吞しして却て漢  
字てふものは深遠且つ巧妙なり之を以て十人世界の大半を抗し  
得るものと思得居るもの多ふければ余は假りに之を簡易派と称  
し置くのみ

やれ然り而して現時我社会より於て尤も國家より効用ある働きを為  
しつゝあるものは蓋し洋字派と雜字派より及ぶもの無しと雖も其

所謂雜字派たる我々は自ら好んで雜字するにあらざる我國内面の  
事情ハマコトに繁文雜多にして或は多の年月を擲ち許多の資金を  
消費するにあらざるんば到底解し難き社会に喘息するが故に漢字  
として五六千も心得ねばならず而して洋字は勿論勉強せねばなら  
ず西も東も生かみせねばならぬ境遇に陥りつゝあるなり而して  
社会は之を異とせず新聞紙も賣上高水々たるに拘はらず仕方が  
無く之を便とすす十八千四面凡て是れ無茶苦茶ならざるはなし  
我々は既に字を習ひて知らず識らざる間に多ふくの文字を知り  
稍々彼是一人是彼つくりと並ぶること得たるが故に今や格別の  
不便と不平あきか如しと雖も民衆の多ふき天下の廣き社会の多  
忙ある生活の困難なる一二の子弟を教育するにも中々家政の一  
大苦勞よりして種々錯雜の事情ハ相混合相偶合して所謂不経済と



不便的の動作と許容し得べき乎我々は成る可き又一層雜字派の人物を養成せんとする希望を抱しも此派の有様よては到底言ふ可くして行ふ能はざるが故に寧ろ一大英断を以て字内の輿論世界の大勢に基き所の新文字を發行せずんあるべからず我々は如何に我々が社会の分子は個々別々たるや如何に散々落落たるや我社会の思想は混乱せざるや而して國家の團結力は是よて可なるや否や尙一層整と強固ならしむる必要なきや否や即ち我國の文字を改正するの必要なきや否や現は不便不都合の点あるや無きや之を微物として是を小事として顧みざるべきや否やを考究するの義務あるは勿論の次才ならずや然らば則ち我々は益々歩を進め耳を側立て、彼の漢文字は如何に我社会を不便よ

一つ、あるやを討究し如何なる現況なるやを見聞せんと思ひ立たざるべからず請ふ之を左の榎盒子にも聞かんことを

榎盒子と呼べん文士の曾て太陽紙上に述べたり曰く様文章上の用語ハ世ノ学者中ヤカマシク之ヲ論スルモノアリテ未ダ充分改良ノ功ヲ奏シタリトハ行カザレドモ茲瓜カ改良ノ端緒ヲ開キカケタリ單リ演説ノ用語ニ至ラハ銘を勝手放題上あごト下颯トブフカリ次才ナルヲ吐キナラシテモ誰アリテ之ヲ難ズルモノ無シ豈ニ遺憾ト謂ハザル可ケンヤ文章タルモノハ目に見テ而シテ心ニ解スルガ故ニ少々グラハ文字語句ニ間違アリテモ意ノ通セザルハナシ演説ハ然ラズ耳ニ聞クダケユ工音讀ノ言語ナド、未テハ孔子カ格子カ孝子カ講子カ剛士カ考思カ厚志カ黄紙カ皓齒カ分リカヌル場合少ナカラズ幸ニ文字ヲ



解スル程ノ力アルモノハ前後ノ接續ヨリ推測シテ今ノこゝろし  
 ハ如何ナル文字ノこゝろしナル可シト心得スレバ文字ニ疎キ者  
 ニハ蒙々曠々唐人ノ寐言同様ノ感アルハ一ン君レ演説ハ学士サ  
 ナクモ上流人士ノ間ニノミ用ルモノトセバ音読ノ漢語ヲ遣フ  
 丁ニシテモ君文ナカラシ如何ヤン今ノ演説ハサル場合ノミニ  
 用井ラル、ニアラズ余ラヌ屋ノ寄合我利我利育者ノ集会等ニ  
 モ是非ヤラ子バナラヌ場合ノ才ナカラサルコト固ヨリ口舌ノ  
 業ユ一其用途ニ廣ク入ラ感セシムルモ深キ道理ナリサレハ文  
 章上ノ用語ハ姑ク後廻シニメ演説用語ヲ改良スル方今日ノ急  
 務トコソ云フ可ケレ庸カズヤ先年帝國議會ノ議場デスラ矛盾  
 ラ(ホコトニ)トイヒ緊急ヲ(チンキウ)ト述ベタル議員アリシヲ  
 帝國議會ハ日本全国ノ選良ヨリ成立キ假令ニ々大學者ナラザ

ルモ興学文育ノ苦ナケレドソレニテ尚斯ル珍語ヲ臆面ナシニ  
 吐ク先生アリ実ニ人間ノ理合心ハ表面ノ「フロクコロ」トヤ羽  
 織袴ノミガ美ナレバトテ健全ナリト看做ス訳ニハユカ又ナリ  
 已ニ現今開会中ノ議會ヲ傍聴スルニ各議員イブレモ士塾魯ノ  
 辨布婁那ノ舌蘇秦張儀ノ願ヲ以テ溜コト述立ラル、所感服ノ  
 外ナケレド兎角御当人ノ学識ニ任ヤテ漢語ヲ多ク使用スル  
 ハ甚ク閉口ナリ尤モ恐縮失敬公平偏頗動儀提出奮発勉強忍耐  
 遺憾精神交心主義曖昧等ノ如キ普通レテ誰ノ耳ニモ余リ易キ  
 漢語ハ俗語ニ均レキ常用語トナリ居ルヲ故之ヲ避クルノ要ナ  
 ケレド間慣レガル漢語ヲ已一人兼知シテ揚々ト演説中ニ用エ  
 ル杯ハ啞ニ庸苦シキノミナラヌアタラ大切ノ趣旨ヲ不通ニ終  
 ラシムルノ恐レアリ御当人ノ為ニ惜ムレサレド是ハ大臣改



府委員モ同ニ事ニテ説明各辨ノ任ニ當テハ別シテ注意ヲ望マ  
 ガルヲ得ス曩ニ渡也大藏大臣が戦後ノ財政意見ヲ述べタル時  
 如キ議場存外ニ大人シク咳聲ノ外マセテ返シテ聞カザリシ  
 ハ結構ノ事ナレ其其同大臣ノ演説ハ多ク新熟語ヲ混用シ  
 タル為メ惡クスルト意味ヲ解シ得ザリシ誤莫アリシカト思ハ  
 ル、也中ニモ曩モ有ナレザリシハ歳入ノ(ホテニ)又ハ(ホテニ)ノ  
 計画トイハル語補天ナラバ女媧氏ノ故事ナレ其此ト漢學者真  
 過ラ斯ル演説ニ用ルノ必要ナレほてんからナ云々トハ辨慶  
 上使ノ淨瑠璃ニ下ル言語ニテ大々のろ氣筋ノ意味ヲ含メル文  
 句ト云フ古人ノ説アレハ真逆財政計畫上ニのろけ文句ヲ用ル  
 如キ渡邊藏相デモナカルニ然ラハ奉天カ法轉カ但シハ風顛  
 乎ト迄考へ廻シタレ氏鳥ツ渡合点カ行カザリシハ余ノ此ニ非

ハ傍聴席ニ詰懸居リシ者余ヲ合セテ百九十八人ト後ニテ聞ケ  
 リ演説ノ筆記トナリテ頭ハ、ヲ見レハ無慙ヤほてんトハ補填  
 ノ文字ナリ疎遠ト云フ程ノ文字ニアラ子ト演説ノ用語ニハ音  
 讀ヨリモ填合セト云フ方合リ易クメ都合ヨカニ一キヲ態ト六  
 ケ數漢語ヲ用キタルハ如何ナシ舌ノ加減カ如ラ子ト遂ニ感心  
 仕ルニ能ハザル也サレ氏渡也藏相ハ演説家トイフニ非レハ用  
 語ノ適否ヲ知ラザルモ姑ク恕マシ唯尾崎行雄君カ上奏按提  
 出ノ意見ヲ演説スル中ニ(ち)内、からかい、たいふらむ、(た)ト  
 聞エタル大句アリ名ニレオフ舌壇ノ雄タル同君ノ演説滿腔ノ  
 慷慨ヲ以テ之ヲ遣ルコトエ言々快活聴者ヲ奮動スルノ價ア  
 リタレ氏斯ル珍ラシキ大句ヲ交エラレテハ三百ノ頭顧中二百  
 六十人迄其意味ヲ解レ得サリレトツ評判アリ或ハ議莫ハ君ニ



向、伊藤総理大臣攻撃ノ演説ニ(種々後悔大砲を打うと)た  
 云ハレテ見ルト總理自身外交上ノ遣リ損子ヲ心付後悔シテ麻  
 戦シヤウト試ミタル如ク間工攻撃ノ力ヲ減スルニ非ヤト詰  
 リ尾崎君ハ否トヨ僕が述べタルハ置酒萬金大風ヲ歌フト云フ  
 一ナルゾト大字ニテ之ヲ示レタルニ彼ノ談負ハ成程置酒萬金  
 ハ解セタレ氏大風ヲ歌フノ意味が僕ニハ判ラヌト云ヒシトカ  
 ヤ是レ必竟漢語ヲ用ウルノ過ニテ少ク目ニ大字アル者モ百ニ  
 間イテハ当字ヲ思付ザル一アリ况ヤ漢高祖大風歌ナド、未ラ  
 ハ餘程ヒ子ツタル故事ニテ新聞ノ素讀が出来ル位ノ字力ヤハ  
 談負ノ百ニハ通用スルガ無理ナルヲヤサレヒ此レハ余が見聞  
 セレ中ニテ甚シキ一二ノ例ニテ漢語入りノ演説ハ毎日ノ様ニ  
 議會ニ現ハレワ、アリ誰レモ演説者ニ対シ用語ノ質問ヲ奉シ

タルヲ聞サレ氏其実分リ易キ事柄ヲ漢語デ六ヶ敷述ルタメ聞  
 取惡キ例ハ沢山アリ曾テ聞ク英國ノ名士故ジヨン、ブライトハ  
 其演説ニ羅旬語ヲ用ウルヲ避ケ悉ク純然タルアゴロサクソン  
 ノ邦語ノミヲ用キタリト余モ我國ノ演説者ガジヨン、ブライト  
 ノ國粹主義ヲ採用シ漢語澤山ノ演説ヲ改良シ成ル可ク邦語ヲ  
 用ウルヤウ工夫セン一ヲ望ムナリ邦語ニテ誰ニモ分リ易ク演  
 説スレハトテ識者ガ文育ニ利巧者ガ馬鹿者ニ見エル氣遣ヒ又  
 レテナシ寧ロ玆茲漢語ニ托シ誤魔化スコトが出来ヌ文ケ未熟  
 淺識ノ徒ニハ不勝手ナルニケレ氏未熟者ヤ淺識ノ輩ニハ演説  
 ヲ乞フノ必要ナカルニ殊ニ帝國議會ノ談負タランホドノ者  
 杯ニ未熟淺識ノ輩アルハ太ダ面白カラズ漢語ノ使用ヲ禁ジタ  
 ル為メ此等ノ談負口ヲ閉キ演説スル一が出来ヌトナラバ實ニ



國家ノ一大快事賀之キ次才ト云フハシ漢語澤山ノ演説ヲ囁  
 ヲテ意味ノ消化ワルキハ餘澤山ノ雜煮ヲ食フテ腸胃ノコナレ  
 惡キヨリモ心地変手古ナリト福沢先生ノ金言宜ニナル哉余ハ  
 議會開會演説ハヤリヲ期トシテ是非トモ演説用語改良ノ動議  
 ヲ提出セバヤト昨今賛成負集ノ真晁中云々

夫れ三百の諷刺は夜光の玉挿ひ諷刺堂は民の胸知る聴音器にあ  
 らずや故に諷刺堂の出来事ハ其善不善ヲ拍はらす凡て是れ我社  
 会ノ反影即ち写真ありと心得ねばならず若し諸子にして不学者  
 多ふければ我社会も不学者最大多数なりと察せざるべからず彼  
 等諸政治家が名譽にくらみ模倣民ヲ贈賄する者多ふければ是れ  
 我國民は之ヲ好むもの伏山ありと心得ざるべからず而して彼等  
 は如何なる言行ぬ何なる奉勸あるも多数國民中の上等人物と見

做さざるを得ず何と云はば衆議院の議員たるものは必ずしも学  
 識者に限るにあらす故に彼等の内に漢語や洋語を解せざるもの  
 在らん將又必ずしも文章家に限るにあらす故に運筆不自由なる  
 もあらん然れども彼等は夜光の玉挿たる價值あるものと信せさ  
 るを得ず是れ何人もひとり學問や辯口又は官位のみよて社会の  
 信用或は人望を有す可きものにあらざればなり況んや言行は真  
 味文字はレホリ粗たるに於てをや彼等の勢力興望あるや必ず其  
 郷里に於て重き所あるか為なり即ち祖先の餘徳にあらすんば自  
 身の徳行自身の徳行にあらすんば彼等の才略又ハ法律の造り方  
 事あるありて必ず反對派の思ひ至らざる点亦きに非るべし  
 然るも我々は國家の為め成るべき文け善良有徳の士を模倣せ  
 ざるべからざるや勿論なり出来得るだけ才学敏達の人物を求め



ざる一からざるは無論なり而して我々は國家の玉搦たる夜光の  
 府に於て餘りを失体なからん様願はざるべからざるは椶盒子と  
 同感ならざるはあらず大ニ賛成せんと欲せしめ余は本論の主  
 義上よりして椶盒子の如く單に言語すなはち演説の用語のみを  
 改良するを欲せざるなり余は實に椶盒子の實際論を聴きて益々  
 我々の文字を改定し愈々簡便実用的の文字を主張せざるべから  
 ず如何とあるは彼の三百の玉搦が漢語を使用し傍聴者を苦ま  
 せむる原因を探究すれば我々の社会我々の学海は甚だ無方針ま  
 ことに無茶苦茶として漢字の如き不便迂濶の文字を使用せし結  
 果は外ならされはなり

我々は恐る我國民よりして不便佶屈の文字に着戀し未來幾多の好  
 男女をして世界の逆境に立たしめば我國家は遂に奇思議の狀態

に陥り学者ぶる学者は流の抜けざる柿の如く社会の調子益々流  
 く上下の区別愈々苦く國民の思想甚だ変手古ならんことを

又憂ふ我々は明治二十七八年に於て東洋平和の義を知らぬ蒙昧  
 頑固の敵に勝ちたりとて最早民智と富力までも欧米に比し得  
 べしと心得相悦喜して而して明治の燈臺其元暗かりずと為し深く  
 社会の内面を窺はざらんことを

看よ三百の玉搦より降りて地方の縣会郡会或は町村會に至れば  
 種々後悔大砲を打ふ如きのみならん種々奇怪噴飯に堪へざる珍  
 事千百よりして足らず而して其泉源と因由を探ればすべて是れ  
 佶屈不便の文字より流出し来らざるは無し

我々が将来頼母しく思ひ常ニ親愛せんとする我が学齡兒童の就  
 学に關しては各地方に於て益々其利便と普及とを企圖し且つ其



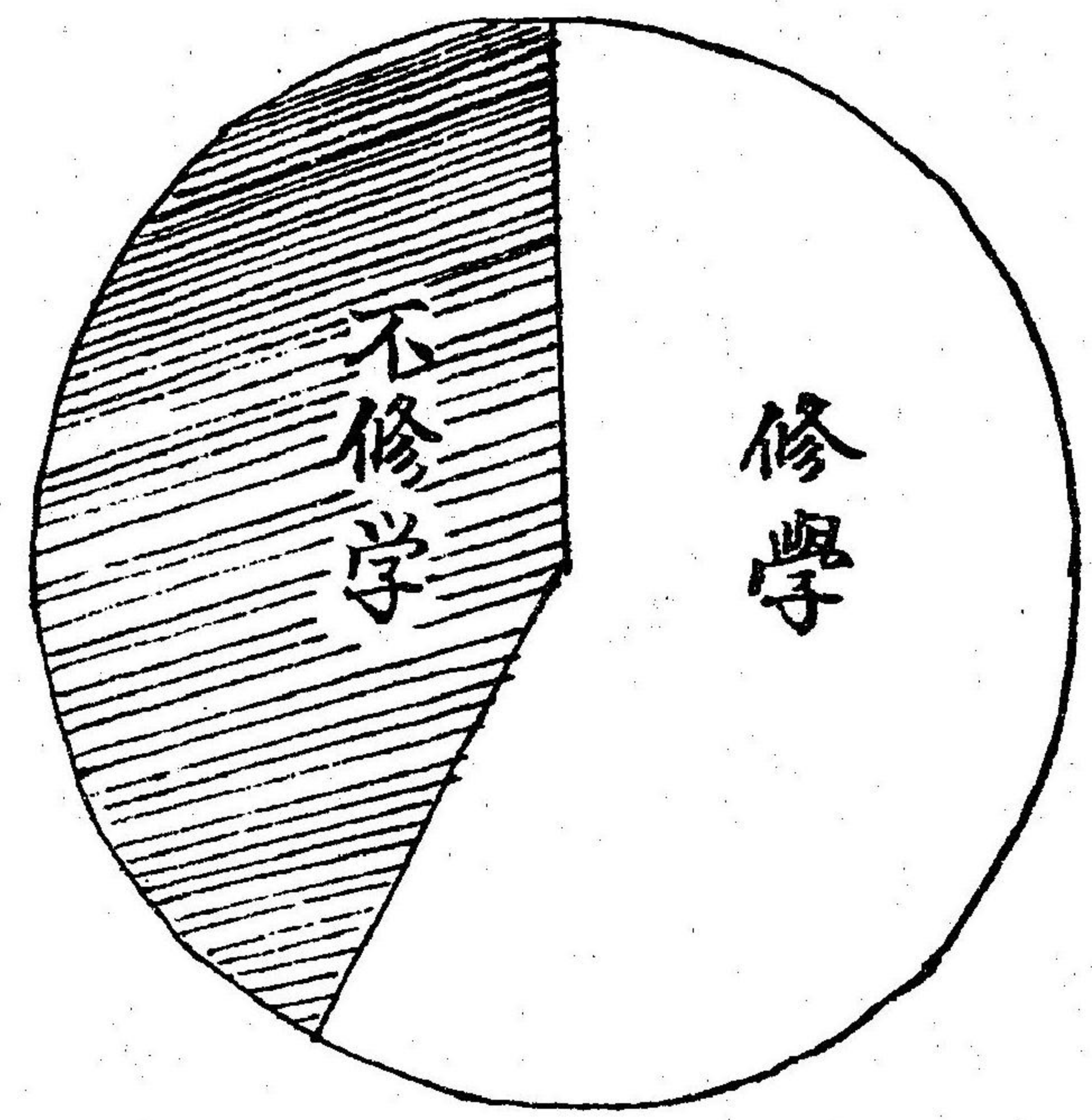
の児童を保護するもの遂次就学の必要を感ずるに至り連年これが増加を見ると益々尚ほ多憂慮に堪へざるの状況をいめせは左の如し

年次	修学		不修学		合計
	就学	卒業退学	未修学	未卒業退学	
明治廿八年	三、〇六六、六九	一、二七三、〇〇〇	四、三三九、六九	一、八六七、四一八	七、六七〇、八三七
同廿七年	三、九〇三、九三七	六、四二〇、〇〇〇	四、五八、三三七	二、三〇五、六二四	七、三三〇、一九一
同廿六年	三、七二〇、八八〇	五、四四七、一〇〇	四、二六五、五九〇	二、四九二、九八二	七、二六三、二〇二
同廿五年	三、五七二、六四六	四、八三六、六二六	四、〇五六、二六二	二、七八〇、四九三	七、三五六、七〇四
同廿四年	三、二五三、四八八	三、七七八、七六四	三、六三三、三三三	三、〇七〇、六九〇	七、二二〇、四五〇
同廿三年	三、一九三、二六六	三、三二八、四五三	三、五二〇、七二八	三、一五三、七四〇	七、一九五、四一三

右は文部省才二十二年報及二十三年報に拠りたるものより明治二十八年の合計は更に就学義務の生ぜざるもの五十九万七

千余と算入せり我々は兎に角是に依りて我普通教育海は次才に  
 進歩一つあるは疑いなき事実を察知したれとも其未就学者も  
 亦豈に驚くべきの至りならずや而して現今公学費歳出の總額一  
 千数百万円ならんとす勿論小学校外も含み居ると益々斯の如き  
 費用を以て左の如き結果を現はせり

学齡男女百名中



●黒部、未修学、部外ナリ  
 ○百名ニ付六十一、二四、修学

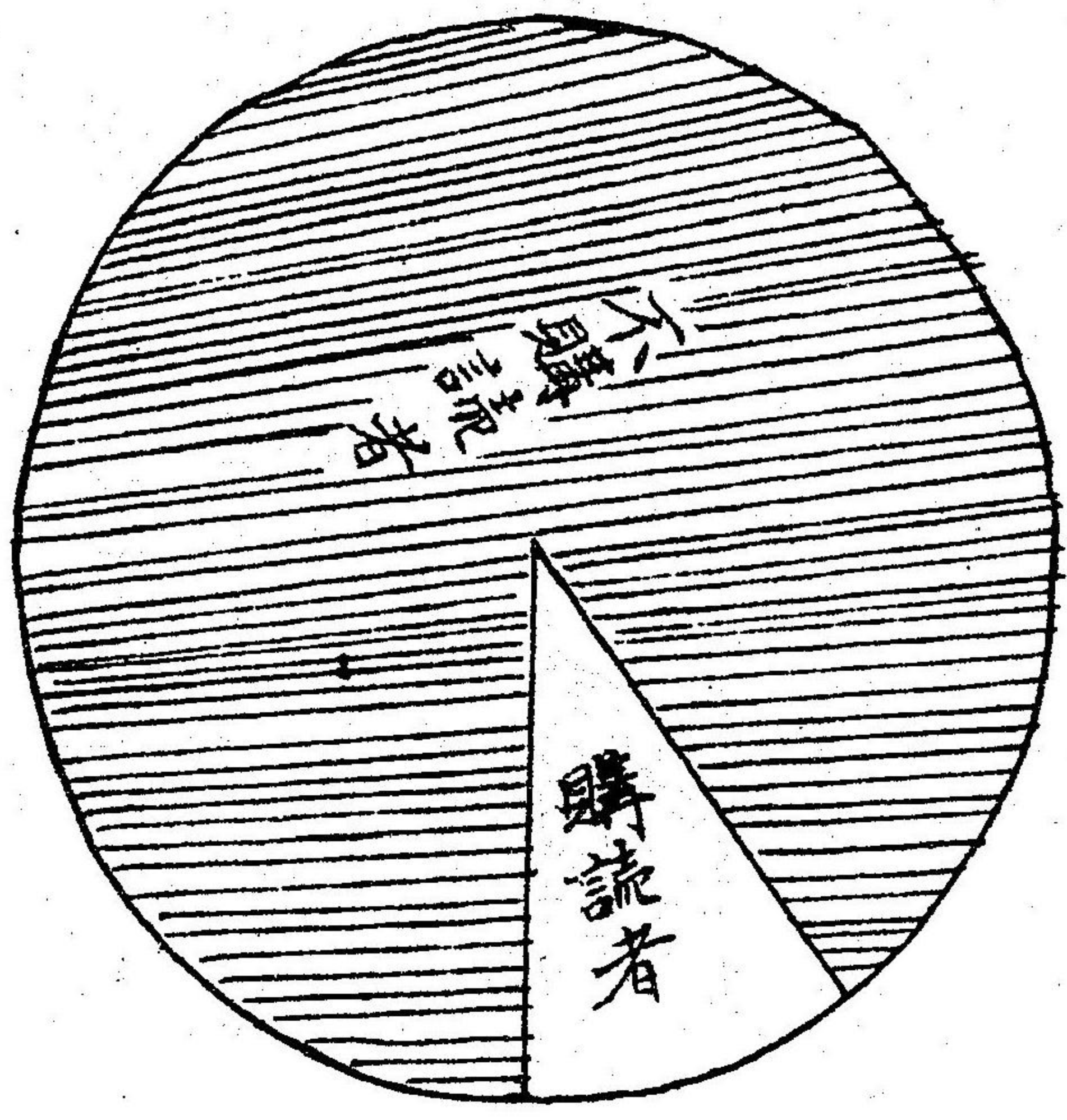


我々が信認するところの当路者及教育家は我社会を文明ならしめんとすること斯の如くありと雖も是等の学童は将来社会に立ち実業界に翔けるに当り果して尋常の筆力と理解力を有し得るや否や是れ我々の常ニ掛念せざるを得ざる点なり否や余は漢字の不便よりして難屈なる点より推考せるときは或は恐る其十分の九は普通の理解力なく多しは無筆同然よりして振り假名新聞すら難しとするは已ニ前回に於て述べたれども今是が實際の状況を論ぜれば左の如くなりんと確信せざるを得ず

明治元年学制ヲ立テ明治六年頃大ニ普通学校ヲ擴張メヨリ全国民ノ小学校等ヲ卒業セシモノ實ニ五百餘万人ナルヘシ之ヲ精細ニ掲出シ難キ工本尙ハ概算セシ所ナリ新聞紙購読者ハ右ノ十分一ニ当ラズ而メ其論説ヲ解スル者

### 学業ニタル

全國民五百万人中新聞紙購読者ノ数



復タ其ノ二分一ニ過ギザルヘシ  
 國家ノ基本タル工農商ニ従事スルモノニメ購読スルモノニ至テハ復タ又其二分一ニ当ラザルヘシ



人智は翅ヲ飛龍の如の進歩と誇称せる我々が社会の内部は夫れ斯の如くなる乎勿論新聞紙を購読せずとも立派ある人物なきは非るべしと云ふ今の世よ之を購読せざるもの斯の如くならんとは豈に愕然たらざるを得んや或は貪困よりして社会の出来事世の進運は注目せざること能はざるもの多々あるべしと云ふも五百余万の人物悉く貪困あるに非るべし元より教育を受けたるもの固より有財のもの多敷あらん然るに斯く新紙を購読するものなきは何ぞや世人は兎に由余は之を以て我文字の倍屢贅身よりして普通教育を受けたるものよても之を消化し之を活用せる人の能力無きは故せざるを得ざるなり

折角まなひやを起し学制を定むるとは云へ新聞小誌すらも読むこと能はざる只々字知りの理知らずたる國民を輩出せしめては

却て是れ國字一の造り損よりして造りて活用なきは二度の損あるらすや彼の緑眼嫌まは赤髯子の如く普通学校卒業後は理解力遅ましく愉快は雜誌新紙を通読し得る程の活用を有せしむるは是る一き簡便文字は非れば折角多年の日月と學費を消費したる甲斐としては幾何も之れ無かるべし斯く学校より學んだきりの國民ならば我従来の惡弊多し姑息ある家庭の教化に左右せらるるのみならず民は眠るが如く人は無気力よりして一々政府の御厄介と御誘導を仰かざるを得ざるべし而して如何に實業上の發達を促し其途達や中々緩慢あるべし如何に軍事教育を注がんとするも其教育や効顯少なるべし如何に文学の隆盛を計らんと欲するも其社会の一小部分に限らるべし如何に名論や卓説を喋らせらるも其新聞雜誌の賣上高僅少よりして或は三三万或は二三千



部に止るべし而して一方の天地を望めば学者は万千の  
角文字に耽り章句の些末に汲々として社会の状態いと解し難き  
に至るべきなり

斯くして我國民を富力の支智力の民たらしむるを得ば我々は如  
何ぞ廻らぬ筆をまわさんや斯の如くよして我國民を協同力や團  
結心と富める人たらしむるを得ば我々は如何ぞ廻らぬ舌を廻  
さんや已に我全國の新聞紙奉行高を以て巴里或ハ紐育の一新聞  
社の奉行高を比して慚色あるにあらすや然らば我國民は何を以  
て其智力を養ふ可き乎辨士の辨が寄席の談話欣役者のこわいら  
欣否を以て然らず然らば何ぞや博士も各弁士も苦しみ天魔も解  
する能はざるもの乎否

嗚呼我學海の此の不幸にして不公明なるを如何乎せん

### 第四章 文字上我國家の内情

現今の日本人たる我々に内て漢字の非点を述ぶるは猶ほ余が面  
前於て余が容貌を品評せらるゝが如くまことに否やらしくはま  
ことに大さういの次才たるに相違ありと雖も仍ほ一言せざるを  
得ざるものあり如何とあるは現今の状態を明しせざれば以て今  
後の教育を改進あること能はざればなり

つらく東西兩洋の社会を比較し亦其文字の研究せれば彼が社  
会は生産的自営自治の社会よして其文字も亦平民的实用主義の  
文字と謂はざるを得ず而して我が東亞の社会は不生産的依頼主  
義の社会よして其文字も亦不生産的迂遠の文字たるや明かなり  
故に彼等の社会は生産の進歩著しく富強の威名全世界を壓服す  
るも近づきて其内部を見れば上下悉く一足なる簡易の文字を使



ひ大厦高樓に住もる王皇貴婦人も茅屋破窓に踞坐する田婦野人  
 も其看るところは等しく同一文字の新聞紙たりざる無し然も我  
 等の國家は或る年月を経過するも常に依然たる古昔の有様た  
 るよ過ぎや文那二十四朝の革命も僅に朝庭の革命のみ上流士人  
 的の運動のみ我が五代九変武家五変の改革も僅に上流治者の改  
 革のみ近づきて其内部を見れば大字を知るものは武人文士のみ  
 其平生坐食して餘暇あるものに非れば能はず故に農工商の輩は  
 二三百の文字を記せらるも常に無能に安せり近代に至りて彼等と  
 交易し所謂ペリリ後は審め合ふ程に睦みたる為に蟹文字の効用  
 を知り時務を計り時勢を察したるものは皆蟹文字のお蔭に依り  
 て活動せしむる過きん  
 そもく文明の真味を剪り未り富強の根元を觀察し来れば悉く

75  
 普通教育に因らざるものあきを以て彼の改米の山河を跋渉し宇  
 内の活歴史を見聞したる我が先進識者は俄令征韓論の紛々たる  
 事逢ふも南海の空氣動搖するも一たび落楨山の鐵路に驚し倫敦  
 の空氣を吸ひ佛独の工商業ヲ視察したる眼光は一に内治の改良  
 に傾注し学制文物を振作するに汲々たること茲に二十有今年殆  
 と三十年あらんとす此間学舎の起ること或万五千学生の入校せ  
 る或百千万人年を其業を卒ふるもの亦五六十万而して國威の揚  
 ること西の方四百餘洲をたびやか一南の方台湾を取れり是れこ  
 トリ教育のみにあらずと雖も教育の制度を張らずんば争か茲に  
 至ることを得んや若し御氣を入りの語を以てせば神州の美峯各  
 國皆拍手し花咲かぬ草の野にあり自治の民としても申しよしか然  
 れども是れ一面のみ其他面を窺はば我々の進歩よりも彼等の進



歩はますく 迅速よりして我々が東亞の大國肥満した御國体をほ  
 こり進歩の世汽車より引かれて善光寺行を喜びつゝある間も彼等  
 は如何彼等は実より千里の鐵路を北地の廣野に延き万里の山河を  
 割裁して世界を旬日の中より横行せんと企て或は百万の猛士を養  
 成し万頃の大艦を乗し日清戦争を見物して中廢をりおよし成さ  
 れと曰はぬ計りの風情あり嗚呼真に驚くべきにあらざるや  
 是に於て東亞の天地は如何ぞや露の露よりも未開國を征服する  
 事適もせとも未だ文明國た加ふる事能はず故に露人其鋒を東  
 亞に肉け清を誘ひ韓を抱けり是れ我々は我々の隣室に虎狼の進  
 入を見るが如し然れども無智文盲の清韓は謂ふに足らずヒトリ  
 我國のや田原評定果して如何ぞや

財政家ハ曰ク新税増税ハ國家ノ必要財政ノ急務ヲ補フ為メ止

ヲ得ズト云モ可成的將來一般經濟ノ牽連ヲ妨ケス 徴税ノ法簡  
 易ニシテ且ツ多額ノ徴税費ヲ要セザル巨額ノ收入アリモノヲ  
 援メザル可ラス即チ國庫ノ財源ハ之ヲ海關稅酒造稅煙草稅若  
 クハ所得稅登録稅ノ如キ地方ノ財源ニ關係ナキ稅質ノモノヲ  
 援メズルニゴト必要ナリ云々

産業家ハ曰ク政府ハ銳意熱心シテ簡易農學校及徒弟學校ノ制  
 ヲ布カレ年々拾五万圓ヲ支給セラレ上ノ為メトコロ下果シテ  
 其意ニ副ハルカ世ノ青年ニシテ學問アリ教育アリモノハ往々  
 浮華ノ言論ヲ好ミ着實ノ生業ヲ厭ヒ治産ノ要務ヲ後ニシテ空  
 想ノ習癖ヲ染シ或ハ衙門ノ小吏トナリ或ハ市井ノ無賴トナリ  
 政治法律ノ是非ヲ論ジテ徒ニ一世ヲ空過スルモノ多ク是レ  
 實業上ノ妨害物ニメ國力ノ奉ラザル所以ナリト



軍人社会ハ曰ク我國ニ軍事ノ思想甚ク乏シ兵士ノ解隊セラ御  
 里ニ飯ルヤ忽チ情弱社会ニ風化セラレ、憂ヒナキニ非ズ是レ  
 軍事教育ノ概関ナキカ為ナリ故ニ之カ概関雜誌ヲ奉行セザル  
 可ラスト (奉行セシモ購読者甚ク大救ナリシト)  
 政治家ノ一人曰ク武財政ノ困難ナル我が国力ノ貧弱ナルヤ明  
 白ナリ然ルニ廟堂ノ採ルトエロノ方針何レニカ在リ政費ヲ節  
 セスレテ軍備ノ擴張ヲ諾リ責任内容ヲ立テスレテ藩閥ノ政弊  
 ヲツクル是レ我輩民間ノ解ス可ラザル一ナリ地方ニ不用ノ官  
 有林地アルヲ松下ズシテ年々負担ヲ増加シ郡制府縣制ヲ改良  
 セズシテ一ニ政府ノ便ノ計リテ民ノ不便ヲ問ハズ是レ我輩  
 ノ切齒セザルヲ得ザルニナリト  
 文学家ハ曰ク官途ノ價値アル未ダ我邦ノ今日ノ如キハアラス

朝野ノ差別ハ拾モ極楽ト地獄ノ相違アルカ如シ若シ我々ヲメ  
 適當ニ今日ノ有様ヲ評セシメバ曰ク英國ノ大宰相タラシヨリ  
 我邦ニ於テ地方長官ヲラント○眼ヲ轉レテ現今ノ經濟世界ヲ  
 視察スレバ未ダ嘗テ独立独行政治社会ノ牽制ヲ放レテ其ノ純  
 然タル經濟的ノ事實ナルモノヲ見ズ例ハ日本銀行ノ貨幣市  
 場ニ於ケル日本鐵道会社ノ鐵道事業ニ於ケル日本郵船会社ノ  
 航海事業ニ於ケル蕪然トシテ頭角ヲ顯スガ如シト亟モ要スル  
 ニ是レ皆政府ノ餘力ニ憑リ政府ノ餘光ヲ假リテ以テ自ラ豪ナ  
 リトナスニ過キヌ若シ人我々ニ向ワテ今日ノ有名ナル我邦ノ  
 紳商ハ封建時代ノ所謂官吏ノ一部トモ云フ一キ御用達ト爲何  
 ノ相違アルカト問ハハ我々ハ未ダ其相違ノ真ヲ奉ゲル能ハザ  
 ルニ苦ムナリ云々



教育家曰ク普通教育ノ本領ハ尤モ健全ナル常識ヲ有スル國民  
 ヲ造クルニ在リ國家ノ中堅トナリ根柢トナリ其活カヲ支撐ス  
 ル所ノ多救國民ヲ造ルニ在リ然ルニ現今我國民カ文化ノ程度  
 ハ甚ダ卑キモノニアラズヤ風習ハ人智ノ鏡ナリ今日尤モ行ハ  
 ル。昏冊ハ振假名附小説的ノモノニシテ學術上ノ價值ノ如キ  
 ハ殆ト言フニ足ラズ偶々理ノ高尚ニ傾キ説ノ精確ニ近キモノ  
 ハ一部少數ノ社會ニ讀マレ、ノシ其賣上高多フク氏二三千部  
 ヲ出テス社會ハ專門學者ヲ説ク以テ高尚鮮スベカラサルモノ  
 ト為レ敬遠主義ヲ以テ之ヲ待ツ若レ東京ニ於テ理化哲學ニ  
 就テ通俗講義ヲ開演スルモ果シテ如何ノ聴衆ヲ得一キカ彼ノ  
 西洋人(即チ音聲字ノ氏)ガ其講演ヲ輯綴シテ大著述ヲ成スカ如  
 キハ我邦ニ於テ、夢ニガモ之レテルヲ得ザルナリ是レ我普通

教育ト專門教育トノ懸隔過大ナルノ弊ニ坐セズンバアラス  
 外交家ハ曰ク我商人ノ海外ニ在ルモノハ一モ二モナク我領事  
 公使ノ力ニ委頼シ敢テ自ラ計策スル所ナキハ實ニ肝甲斐ナキ  
 次才ト云フ一ニ由來英國人ノ如キハ外交上ニ一大勢力ヲ有ス  
 ルハ商人ニシテ外交ノ手先ハ實ニ貿易商人ナリ英國ノ商人ハ  
 自己ノ一歩ヲ踏ミ出ス毎ニ必ス英ノ領土ヲ廣ムルモノトナシ  
 水夫ニモセヨ商館ノ丁稚ニモセヨ為モ英人ノ血一滴ヲ流シタル  
 土地ハ之ヲ英領ニセガレバ止マザルナリ故ニ英國ノ外交常ニ  
 有カノ結果ヲ顯スモノハ是等無名ノ外交家ヲ有スルガ為也  
 壯士ハ曰ク

外無喜樂内多憂  
 寄語世間憂國士

生民塗炭嗚酸辛  
 勿貪名利誤正義



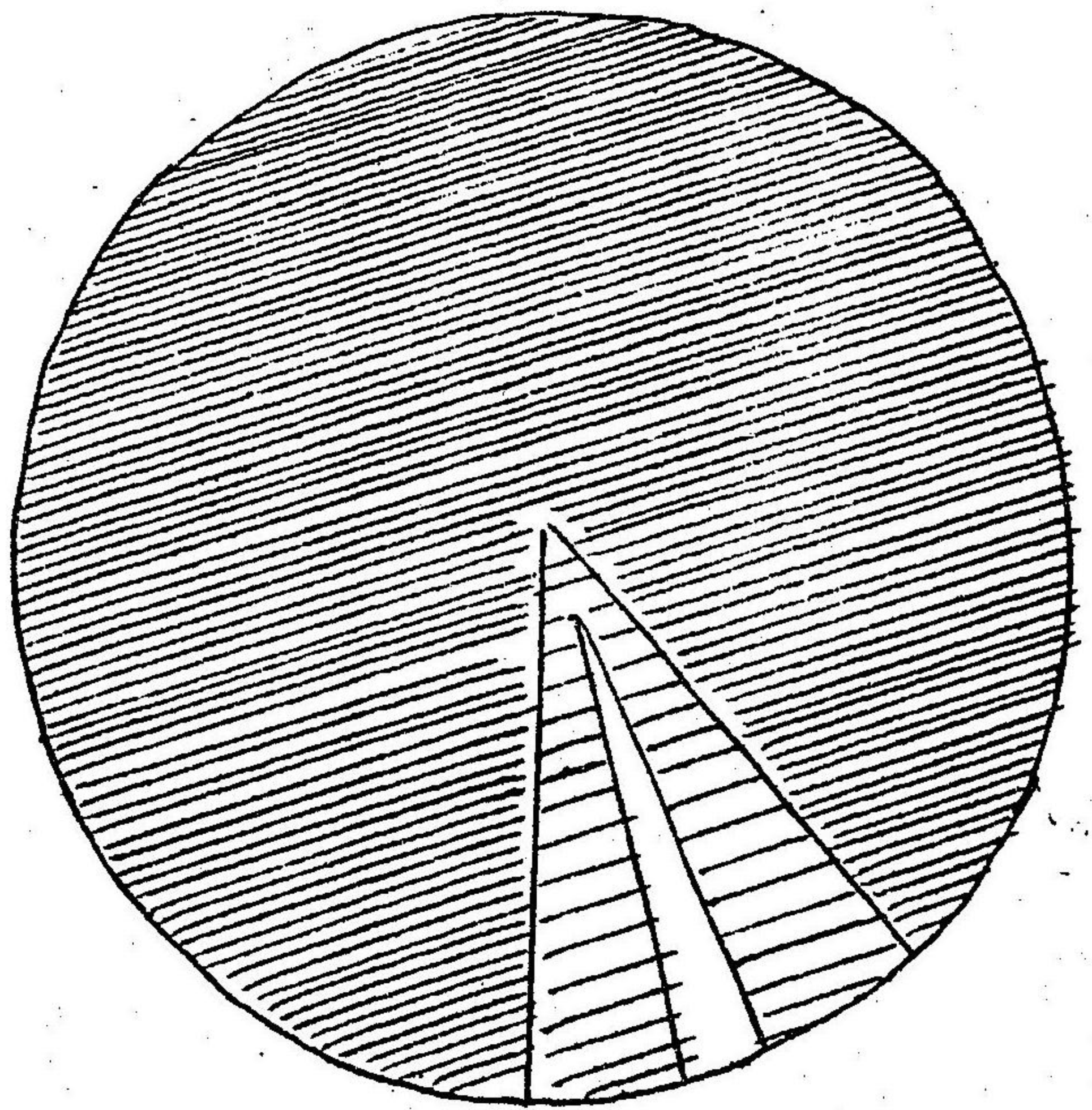
いづれもく卓抜有為の談論よして月々の雑誌に記者の筆を充  
 一日々の新聞紙に喋々又書きたらざるなり志士は圓眼を怒り  
 て慷慨切齒有志は東西を走りて雄辯滔々生産家否な其誘導家は  
 屢々会合して言々切々官吏の威を以て臨み法を以て説き聴者を  
 して頓首感服とやく謹聴たらしめざるなり然れども實際手つ  
 から実業に従事する國民中最も貴く最も目方ある大多數の工商  
 農たる我々は悉く之を消化し能はずして壁上の名論は字知りの  
 理知りすは打ち消され卓上の良説は実業家の胸は落ちた多ふく  
 は世人の間流しを免れざるは社会の實際よして識者の席に遺憾  
 千万に堪へざるどころなり  
 嗚呼余はこゝに四千餘百餘万と絶叫をばさところをれとも四千  
 余百万の人々に聞き取られては且よ云ふところゆうべに行はる

可けせば余は寧ろ普通教育を受けたる五百餘万と呼はん諸君は  
 國民の大多數よあらざれとも智識あり活かなかるべからざる諸  
 君よあらすや然るは我々を案じ我國家を憂ふる先進識者の言を  
 何が故に聞かざるや君一諸君よして産業家を聞き政治家を聴き  
 之に應じ是を實行せば我日本は何ぞ惡弊は消化して健胃の団体  
 と為らざるありんや諸君よして軍人よ賛し教育家に賛同せば國  
 政の改良國運の進歩いやます甚しからん然るは其音なく聲なく  
 眼もが如く伏せるが如く啞あるが如く聾せるが如きは果して何  
 の心ぞや  
 蓋し幾多の制度風習よ由る所あるべしと雖も余は之を左圖に  
 掲げて微証せざるを得ず諸君請ふ此の圖に掲げて我國民の常識  
 何れの真にあるかを考察せられんことを



大日本國民四千三百万人中

- 不学者三千七百万人
- 有学者五百万人内外
- 新聞紙閱讀者五十万弱
- 右閱讀者中三分二ハ不生產的坐食ノ人



- ハ不学者ノ部
- ≡ハ学者セシ部
- ハ新聞等披見ス部

夫れ年々一千一百万の公学費を投じ、数十万の卒業生を輩  
出せる方法ありて而して全國の状況を探索すれば浮世の燈臺社  
会の盲目たる新紙を披見し、閱讀するもの僅々四五百万に過ぎざ  
らんとは豈に不経済極りたる奇談ありや斯の如くにして問  
はずんば遂に宇内の大勢に壓踏せらるゝや知るべきのみ而して  
我々の暗愚あるや果して政府の方針是なる乎民間政治家或ハ某  
君の見るところ非なるや産業家の慷慨するところ尤もなるや否  
を辨別し之を賛否し兼ぬる無事同然世の所謂めくら減法界の社  
会に向つて如何よ叱咤し如何よ痛論し如何程切齒するとも万言  
云ふところ只一句を達し千言述ぶるところ一端を遂くるに過ぎ  
ざるを皓乎として指點せらるゝに非ずや

鳥呼國力の増加即ち進歩力を以て今教歩速かならしめんと欲す



は如何なる方法か可なるや若し文明の程度をして今一層振作せしめんと欲せば如何なる手段か可あるや是れ先づ教育の大改良にあらん而して教育の改良は僅に官制を改正して吏員を増加するに在る乎是れ小刀細工にあらすや大に学費を増加し更に学科を取捨するに在る乎是れ一手段ならん然るとも斯る飽賣主義を以て彼れ音聲字國に對此せしむるに足る良國民を造り得らるや否や

ア、従来我國が意を鋭くして教授し來りたる漢文字は専門家の学ぶべき文字にして尋常人民即ち実業家又ハ大文学者大發明家大政治家を造くるに不適當甚しき文字にあらすや空想の習癖に染み浮華の言論を好むに適合奇妙の文字にあらすや少教社会を教育するに適して多衆萬民を教育するに不適當無類の文字にあ

らざるなき乎斯る文字は封建の餘習を保存し世界の開明の後るに至極都合しるべき文字にあらざるか若し之を大改正するのと無くんば我が中流以下の社会は依然として千態萬状奇々怪々たらざるなからん

一助ト呼べル壯夫アリ七八年間小学校ニ學ビタシ氏卒業後ハ普通ノ読唇ニ苦シミウそ字ヲ唇スルヲ以テ名アリ然レ氏氣骨アリテ健脚の好犬夫ナリ曾テ曰ク君等ハ教育々々ト八釜レク云フケント教育多クキ人間ハ三斗俵ニ腰ヲ抜カシよわん坊ガ若し教育ヲ励行セバ日本人ノ三分ノ二ハ不具情弱ノ人間ト化セシ己等ノ如ク働キヲ吞ミ飲ミテ働ケバコソ氣力モアリ國產モ殖ユルナラメ器械サへ油ヲサ、ネバ廻ラヌニ己等が自家料酒ヲ禁ズルトハはて又安心得ヌトこノ独乙ヲ真似ダノ乎



仁次郎ト云フアリ居常漢字ニ耽リ社会ニ風化セラレテ今ハ普  
 通ノ日本人ナリ或ル時曰ク先頃僕ノ村ハ縣官ニ三人来リテ村  
 由辰会トヤラテ設置スルコトヲ僕ニ對シテ説教的ニ遣リタレド  
 一体我々日本人ニハ西洋風ノ農会ナシゾハ不向ナリ理屈張ツ  
 タ会合ハ実業家ノ毒ダヨ由來我國ハ正月カラ年ホマテ遠近ノ  
 神社ヤ佛閣ニ祭祀法式アリテ毎月々々或ハ謹嚴敬肅或ハ面白  
 可笑シキ会合沢山アリテ金ヤ正月ハ勿論神社講念佛講御  
 山参リ無盡講庚申講<sup>癸</sup>癸會佛事会等アレバ農会ナシト見向  
 モセシ所モアリ又無シモ有ルモ心カラ感セヌハ是レ我國ノ特  
 色神國ノ持前ナシダ近年ニ至リ我々ノ僧侶モ五戒ヲ保テ不三  
 階ノ寐ニ階ハ遊ビ悟入シ夕氣取リ坐禪テ床ノ番シ或ハ甘茶カ  
 化シテかつぼれノどら和尚ナキニシモアラズト是レ洋風入り

テ其悪風ヲ受ケタルガ為ナラン云々

三太夫ト云フ資産家アリ或日巳レノ子弟ヲ難シテ曰ク我が家  
 ハ元トニ三代無事デ出来上リいろは庫ヲ立テタリ然ルニ今ノ  
 子弟タルヤ生業ノ道ニ暗ク浮華ニ傾キ言語ト文章ハ立込過キ  
 ルガ愚翁共ニハ薩張瓜ラヌ又夕朝寝ヲ好シ氣力ナク實地ニ  
 近ナシニハいやはや閉口ダ此間モ水臭ヒ虎尻ニ溺レテ流ノ臭  
 名ニ錆ノ付ノモ知ラズ鐵面皮共いや実業家ノ子弟ニハ學問ヤ  
 教育ノ必要ナシ結句無事ナルガヨロシイ云々  
 村夫子トテ村デハ一二ノ物識アリ常テ曰ク何ンデモ學問ハ角  
 屋物ニ限ル百藝アリトモ所行正シカラザルモノハ取ルニ是ラ  
 不漢學ノ衰廢スルハ是レ修身ノ本立タザル所以ナラズヤ今ノ  
 学生ヲ見ルニ英語ヲまなぶノとらんお取ルノ唱歌スルノトテ



大さおぎスレドモ又手卒業セシ上、碌々文字ノ解釈モ出来ズ  
先頃ノ集會ニ倫敦ヲ「ロンドン」ト叫ケンダ青年アリ義捐金ヲキ  
ケン金ト云フタ人モアル夫レカラ昨日麒麟ノ字ヲ知ラズトテ拙  
者ニ問フタ某校ノ卒業生アリマシテ拙者ハ

麒麟者毛蟲之長仁獸也牡曰麒麟牝曰游聖牝鳴曰皎

昌夏鳴曰扶幼秋鳴曰春終

ト云レテ与ヘタレ氏解セヌ様ナ顔付ナリキアレテハ道德ノ精  
神ナキモ道理ニヤリントシテ「ロンドン」ト遣ラカシ世ノ中ガカ  
ラ論判シテ困ル譯ダギハ金ヲキケン金ト読ムカテ義嫌ナ人  
間ガ輩出スルカモ知ラシ麒麟ハ牝ヤラ牡ヤラノ解ヲ知ラシカラ  
困ルヨク……麒麟ハ行歩規ニ中リ折還矩ニ  
中リ游ニ必ズ土ヲ扶ビ翔ニ必ズ後處生草イヤ生蟲ヲ不履而メ

生草ヲ不折群居セズ旅行セズ陷穽ヲ不犯果罟ニ罹ラズ文章彬  
彬タルモノ是レ位遣レナク今ヤ云々ト

それ我社会ハ斯の如く迂遠將た暗里にして其学識ありと称する  
者も奇人物多小く産あるものは学識おく学識あるものは形式的  
に陥リ迂遠の理想を抱き不生産的の奉動あると免れず其社会の  
上中流より立ちて跋扈するものも政府の庇蔭政府に依頼するに過  
きず而して政府も萬能の神にあらざれば大弊の伏在する点を洞  
察する能はず只〇〇〇〇するものゝ〇〇〇するやの嫌あきに非ず  
故に民間の事業一よりも政府二にも政府の干渉保護を仰がざるは  
無一嗚呼

我々の読者諸君よ我々の社会は頃々日進月歩の觀ありと云も尚  
且つ斯の如く況んや東亞の他形字の諸国よ於てをや我々には之を



改良是を一洗するに如何なる方法を可なるや我々は一日も此の  
奇思議の社会を等閑に看過することを得べき乎彼の音聲字國の  
人種と黄色否形意字國の人種は雲雀と鶉互に真似の出来ぬ同士  
ならはイサ知らず苟も反想の開化は包まれぬ大和魂あるをなら  
こ、に一大勇災して雑居文字を廢改一字引字典を大改削し而  
て将来の新國民を養成せざる可らざるは豈に東亞の人種が目前  
に迫れる大急務をあらすやア、我社会我文字上は於ける此内部  
の奇狀を如何乎せん

### 第五章 文字上我國學者間の意見

前回より順々論じ来り徐々説き到れば漢字の長所よりも漢字の  
失点は甚だ過大にして殆ど採るに足らざるが如き觀あらん然は  
明治の社会に於て何故に學者は筆を揮はず博士は改良の策を立  
てざるや果して彼の羅馬字及かなのくわいより外に方法なきや  
否や是れ實に万客の等しく知らんことを欲する疑問なる一而  
して我々も亦之を斯く思ふところあり然も博士は兩の如く文  
士は雲の如く続々輩出する我等の社会は此の緊急問題交して  
之れ無きにあらず有名なる數氏と民間の卓見ある実業家は口  
を筆に熱心之が新論を立てんと欲するものあり即ち是も其の良  
説二三を記載せば一尺遺憾なるは従来の習慣上漢字國の我々は  
多少其不利を知ると亦も進んで之を改正するの勇氣なきこと



なり

学士嘉納治五郎氏の意見

同氏ハ曰ク漢字ハ之ヲ一見シテ何等ノ意味ヲ含ミ居ルヤ之ヲ  
 知ルニ難カラザレトモ我日本人スラ最初之ヲ学ブニ困難ナリ假  
 名文字ハ僅々四十八字ナレバ之ヲ学ブハ易ケレト一見綴字教  
 ノミ多クテ其何ノ意タレヤヲ見ルニ便ナラズ若シ学ビ  
 易ク且ツ一見シテ讀ミ易キ文字アラバ之ヲ用フルハ学問上非  
 常ノ大利益アラム

去リトテ羅馬字ヲ以テ国字ニ代ヘヨト云フ説ハ賛成シ難シ羅  
 馬字ハ又シテ完全ナル假名字ニアラス其ノ缺点ハ夥多アリ寧  
 ロ新ニ一種完全ナル新字ヲ創製シテ之ヲ我國ノ通用文字トシ  
 諸外國ヲシテ之ヲ輸入セントスルコト嘗テ國人ガ羅馬字ヲ採

用セント欲セシガ如クナラシムヘシ

依リテ思フニ新ニ假名文字ヲ製作スルノ必要アリ但シ件ノ新  
 文字ハ舊来ノ平假名若クハ片假名ヲ補修又ハ改善シタルモノ  
 タシ可キ乎ハタ今ノ音韻上ノ原理ヨリ得可キ純然タル音字ヲ  
 ラシムヘキ乎

若シ夫レ最小ノ勞力ヲ以テ筆記シ得可ク又最モタヤクク学ビ  
 得可キ文字ハ音響ヲ原トシタル文字ナル可シ例ハハ速記法ノ  
 文字ノ如クナリ可シ斯クイハハ音ノミアリテ語ナキニ至ラン  
 ト恐ル、モアランカ又シテナル虞ハナレ(小下)とけい)ナド云フ  
 名詞ハ勿論動詞形容詞ノタグヒモ或一定ノ綴字法ヲ定メテオ  
 ノを特別ノ語トスレ但シ所謂一定ノ綴字法ハ字典著述及ビ  
 一切ノ正シキ文章ノ上ニ用ヒラレ、モノ而モ假字ホドヲ知ル



者ハ之ヲ讀ムヲ得レ何トナレバ其綴字法ハ無學者ノト異ナ  
レ氏總シテ音字ナル限リハ之ヲ讀ムニ於テサレバカハナカル  
可ケレバナリ

我々ハ同氏と面語したるよあらけ故に同氏の意見の詳細を知る  
に由なりと金も兎に南漢字の不便を見切りて新文字を創製せざ  
るべからずと云ふ同氏の高見に至りては天晴と称賛せざるを得  
ざるなり然るとも同氏の説たるや従来漢字に依りて我五十音  
平假名にも拠らざ一種連記的の新泰明音字を作らんと企つるに  
至ては我々の全然賛成を表し兼るところあり何となまば我國の  
言語たるや甚だ平聲簡易にして一も五十音の牽り得ざる言語を  
けせはなり故に言語学者の必要上他國の言語を練修するに於て  
不便あるときは五十音として六七十音と為すは可なきとも之を

全牽して更に連記的の文字を採用せんと欲するが如き語氣ある  
は我々の全賛成し難きところなり

実業家上田氏の意見

上田氏ハ教年昔曾テ曰ク漢字ハ之ヲ一見して如何ナシ意味ヲ  
含有シ居ルヤ否ヲ推知スルニ足ル文字ナキニ非レ氏中ニハ間  
々何等ノ意味ヲ有スルヤ將タ推察ニテハ全ク御門違ハノ文字  
少ナカラズ貸鏡鯨瓶<sup>華</sup>等ノ如キ是レナリ尤モ時勢ノ変遷ニヨ  
リテ然ルモノアリト金も鏡ト瓶トハ全ヤ瓦ノミニテ造リタル  
古代ナラバイザ知ラズ現代ニテハ甚ダ速ニ易キ文字ナラズヤ  
又我輩実業家ニ於テ最モ漢字ノ大缺點トスルハ其字教妄リニ  
多ク記憶シ難キト其音訓ノ餘リ種々アハニハ堪ハ難キ所  
ナリ去リトテ夙簡又ハ意見夙ノ中ニ假字ヲ澤山記入スルハ







感ゼシハ独乙滞在申ナリ予彼ノ「バルリン」存ニテ東洋語学校ニ  
 日本語ノ教師タリシユト云ケ年間予ニ就キ日本語ヲ学ビシ者  
 ノ多教ハ大学ニ生及大学卒業生若クハ語学ニ熱心ナル学者輩  
 ナリキ「ローレン」氏ノ如キモ當時ハ大学ニ在リテ予ニ就キ  
 ケ日本語ヲ学ビシモト、一人ナリキ即チ皆優等ノ学識アル人  
 ナナリ然ニ彼等ノ智識ヲモテレテ三年就学ノ結果幸フシテ東  
 京日々ノ雜報位ヲ解読スルニ止ユリキ當時予カ用ヒシ教科  
 ハ「川朝ノ人情話(牡丹燈籠)」ノ如キモノ又附與シタル字彙ハ「明治  
 玉篇大全」ヤウノ畧  
 何故ニカクハ成業ノ遅々タルカ其最モ著キ原因ハ  
 一 假名遣ノムワカレキコト同聲ニレテ假名字ヲ異ニスルモ  
 ノ、多クキコトクワン、カン、テフ、テウ、ケヤウ、キヨウ、ナド又ハ、ワ

ラテ、ワラフ、ワロウ等ノ辨別シ易カラザル事  
 二 語法文格ノ大ケレキコト現用語法ト文章語法ト相異ナル  
 カコトキ其ノ他總シテ語格上ノ規則ノ整然タラズシテ習熟ニ  
 ヲラザル限リハ諸スルニ難ク教フルニ難キ事  
 三 字彙ノ不完全ナルコト我國ニハ佛ノ「リトリ」レ「英ノ「エブ  
 ストル」ナド云フカ如キ好字典ナキユ且獨習セシムルノ法ナキ  
 コト又字音ノ假字遣ヒナドニ至リテハ従来行ハル字典類ノイヅ  
 レモ十之九ニ信用ニ難キ事  
 四 物名等ニハ往々ニシテ宛字ヲ用ヒタルモノ多ク又ハ支那  
 ノ名目ヲ應用シ割ハ物ノ名ニアテ、種々ノ支那成語(所謂異名)  
 ヲ兼用シタレハ振假名ヲ離レテハ学者モ讀ミ感フホド困難ナ  
 ル事



五 假字不足ニシテ凡ソ多ク難クBV等ヲ示スニ由ナキ事  
六 字數ノ驚クヘキホド夥シキ事

夫レ西洋諸國ニテハ二十六文字ト其綴方トヲ學バ、一切ノ文  
トイハヌコゾモ通用文ホトハ自由ニ讀ムヲ得レシ然ルニ東洋  
ニテハ支那字ノミニテモ大約五方アリ故ニ日本人ハ數ノトモ  
五文千ノ漢字及ビ平假名片假名ヲ學バザレバ普通ノ唇ヲ讀ム  
能ハズトハ不便ノ極ナラズヤ況シテ其文字ノ唇法文体ハ種々  
アルヲヤ若シ將來言語文章一變セシ後ニ今日ノ文章ヲ見ハ其  
錯雜セルニ驚キ且フ吾人ノ特ニ憂フルハ日本人ガ支那ノ  
文字ヲ用フル間ハ多少支那文字ノ支配ヲ受ルルコトナリ凡ソ  
一國ノ獨立ニ因リ思想ノ獨立ハ文學ノ獨立ニヨルモノナレバ  
支那ノ文字ヲ借用スル間ハ支那ノ文學ニ支配セラレ思想ノ獨

立金カラガルナリ

顧レハ十年前ノ文字改良論ニ三派アリキ

一羅馬字ニテ日本ノ言語ヲ書セントノ説

二假名ヲ以テ漢字ニ代ヘントノ説

三漢字削減説

第一ハ國民ノ感情ニ及スルタメ(此感情こそ國家の元氣なり)第

二ハ冗漫ニ流レテ不便ナル為メ第三ハ言語ノ自由ヲ害スルタ

メ孰レモ成功セザリキト雖モ其改良ノ精神ハ始終保持セザル

可ラズ又手又文字ノ改良ハ本來行ヒ得可キ事カ否カト云フニ

古來語ハ偶然ニシテ成リ出テ字ハ常ニ人爲ニ成リ又蒼梧ノ漢

字ニ於ケル弘法ノいろはニ於ケル(假リニ傳説ニ從フ)其例ナリ

今ノ所謂アルハベツ止ハ古代アイニシテ人ガ埃及文字ニヨリ



テ作りシナラズヤ更ニ精シク之ヲ先例ニ徴センカ舊來ノ文字  
 ヲ捨テ、他國ノ文字ヲ用ヒタルハ(一)馬刺加半島ニテハ印度文  
 字ヲ廢シテ亞刺比亞文字ニ更ヘ(二)印度ハ古昔一般ニ梵字ヲ用  
 ヒシガ回々教ノ進入セシヤ一部ノ地方(ヒンドスタールハンジヤ  
 ーピールンチ)ハ亞刺比亞文字ヲ取り(三)獨逸丁抹瑞典ボヘミア  
 ノ古代文字ハルニツクナリシガ後チ羅馬字ニ改メタリ但シ  
 歐洲ニテノ文字變更ハ皆文學未カ盛ナラザリシ時ナリ(四)波斯  
 ニテハ(左)ンドハールラビー亞刺比亞文字ト次第ニ變轉シ(右)埃及  
 ニテハハイエログリフイクスヨリ「エパチック」文字次ニアラビヤ文  
 字ニ改メタリ

又新ニ文字ヲ製シテ舊文字ヲ改正セシ例ハ支那ニテ初ハ  
 蝌蚪ノ文字 (蒼佶ノ作ナリト傳フ)

上古

小篆

(李斯)

秦

籀文

即チ大篆 (史籀)

紀元前八世九世迄

隸書

(程邈)

是レ今日ノ楷書

秦

草書

(未詳史游或ハ張伯英氏云)

漢ノ初

行書

(劉德升)

後漢ノ初

此ノ三ハ今並ニ行ハル

右ニヨリテ考フルニ(一)新文字ヲ製スルカ(二)他國ノモノヲ利用  
 スルカ(三)舊文字ヲ改良スルカノ策ニヨラハ日本文字ノ改良マ  
 タ成シ難キニアラザルベシ然ニ過去ニ徴シテ羅馬字ヲ用フル  
 ハ國民ノ感情ニ及シ假名ニ改ムルハ不便ナリトセバ吾人ノ取  
 テ實行ス可キハ唯一策ノニ即チ從來ノ假名ヲ改良シテ單純ナ  
 ル文字ヲ製出スルニアリ即チ全然音字制度トナシ或必要ナル



部分ヲ除クノ外ハ同音字ハ皆同假名ヲ用ヒ又凡シBV等スベ  
 テ足ラザル音ノ假字ヲ作り思想表白ノ便ヲ圖ルト同時ニ之ヲ  
 學ブコトヲシテ容易ナラシム可シ元ト我國俗ハ自尊心ニ富ミ  
 テ頗ル創造ヲ喜ロコブノ性アリ新假字ヲ作ルノ案ハ或ハ之ヲ  
 實行スルヲ得可シト思フ

日本語ノ假字遣モ面倒ナレド尤モ無要ニシテ面倒ナルハ漢字  
 音ノ假字遣ナリ夫レ所謂漢字音ノ如キハ専門ノ音韻學者ニア  
 ラザレハ學者外ニ辨ビ能ハザル所ナリ今本邦ニテ莫ニ音韻學  
 ニ通ジタルハ木村正辭氏又ハ黒川真頼氏ナド僅々二三ノミニ  
 止ルベシカクマテ辨ビ難キ漢字音ヲ依然守ラントスルハ無用  
 ナラズヤ假ニ字音ヲ辨ズルノ法或ハ定ムルヲ得ベシトスルモ  
 今國文ノ為ニ何ノ益カアラン蓋シ我字典ナドニ傳ヘタルハ勿

論我が音韻家ノ教フルモノダニ嚴密ニイヘバ正音トハ信ビカ  
 タシ彼等ハ韻脚ヲ標準トシテ平上去入ヲ辨ビ得ベシナド曰ハ  
 ンガ所謂通韻ノ夥シキヲ思ヘバ冬東モトハ別ナカリシカコレ  
 將タ甲斐ナキ穿鑿タルニ終ハラシ且ヤ今本邦ニ行ハル、限リ  
 ハ已ニ祭音上ニ區別ナシ何ノ用アリテカ筆記上ニノミ其ノ區  
 別ヲ維持セン且ヤ原音ヲヨクヨク取調ベハ今日正當ト思惟セ  
 ラレタルモノ存外ニ不正ナルヲ祭見スルコトアラン波細ノ如  
 キハ元ハばさいナリシ証種々アルニ國人ハばさいト清ニテ祭  
 音スス十八千原音ニハ戻レルナリ

又手カクノ如ク考ヘ來シハ改正ノ必要ハイヨイヨ明ナリ後世  
 子女ノ為ヲ思ヒ教育ノ利益ヲ多カラシメントセバ普通用ノ日  
 本語日本文字ハ一段簡易ナルモノナラザルベカラズ語學専門



ノ學者輩ハ勿論舊文字ヲ研究ス可ク其他或種類ノ文客等が舊文字ヲ使用センハ隨意ノコトナシモ一般國民ハ簡便ナル音字ヲ採用スルヲ可トス

サテ愈々音字ニ改ム可シト定メナハ其ノ書方ハ如何ス可キ乎假名ヲ改正シテ一層簡便ノモノトセハ其ノ字形ハ頗ル「イニ」シ「ア」文字ニ似ル可シサレバ縦行ニ物センヨリハ横行ニ物センカタ便宜ナラズヤ綴ルニモマタ便利ナルベシ此ノコトニ関シテハ二三ノ反對論モアリシカ元良博士過般未横縦ノ視力ヲ試験シ此春ヤ、切ヲ奏シ横視ノカタ便利ナル由ヲ證セリ云々

井上氏の意見たる也同氏の経験上より見るも識見上より云ふも最も目方あり最も確乎たる説なりと謂はざるを得ず而して此の高説と彼の嘉納氏の良説は文明上流の學者社會を代表し〇〇氏の新説は活潑なる民間實業社會を代表する卓説なるべし然に此諸説は余が將に後章に於て開陳せんとする主旨と大体上相近似するところ之れ有らばそゞく時運の然らしむところか天の東亞の民を見棄てざらんとするが為めか

思ふに近時我が社會も次第に迷夢と妄想をはなれんとする有様無きに非れば斯る新文字論者は尙夥多あるべし加藤博士大西祝氏矢野龍溪氏小島某氏元良博士上田萬年氏等の如き是れなり而して舊羅馬字會負中にも其人あるべし或は舊假名の會負中にも其人あらん然れども未だ新文字を創製して云々するものに至ては有るや無しや寧ろ皆無と曰はざるを得ざる觀なきにあらず且つ新文字論者に関する議論はほい前の二三氏に依りて其要點を



窺ふを得べし他に異なる説あるべしと雖も或は枝葉に涉りて却て薄弱なるものあり故に余は我社會に於ける新文字論の意見を茲に止めて以下には専ら余が所見と余が創製の新文字に就き談論せんと欲するなり

### 第六章 羅馬字を採用するは如何並其性質

我々は前章に其大畧を説きしが如く到底漢文字を廢して一種簡便の文字を採用せざるべからざる也愈々明白なる次第にして方今卓見ある博士や文士の續々唱道する所あるは喜ぶ可く賛し可きの至りなれども其如何なる文字を採用すべきや將た創製すべきやに至ては未だ世に顯出したるにあらざりしと豫想に止り腦裏に伏在しあるに過ぎず然るにひとり最も新奇の感を興へて或は採用せられんとしたるは彼の政米人が自在に活用する所の羅馬字是れなり此の文字之を採用して直に我國に採用す可きや否やこれ本問題の起らざるを得ざる所以なり

それ然り然るに羅馬字の我國語に不適合の文字なりとの事は既に龍溪矢野氏の駁論ありて又我々の拙筆を要せざるに似たり保



しなから他邦の文字にして能く我國語を其儘に寫出し得るは單  
り此文字の長所たるのみならず實に萬邦無雙の健文字と云ふ可  
きは即此の羅馬字なれば余も又本文字の利害を探討せざるを得  
ざる可し

何を以て羅馬字は我國語に不適合の所あるや

矢野氏は曰く昔より日本人の音声は簡單にして其種類甚だせし  
故に日本の假名は日本の字としては羅馬字に優り歐洲諸國の文  
字としては羅馬字に劣れりと豈に適當の鑑定ならずや

我々も亦曰はん日本語の如き簡單平長なる言語を書するに其必  
要によりて生出したる簡單なる日本假字は適すれども羅馬字の  
如き單純なる音字を以てせば日本の「カキ」なる語に彼は「カキ」の四  
字を用ゐざるを得ず而して「カキ」の五字に對して彼は「カキ」

pubeshi の十字を聯ねざるを得ざる失点あり況して其の bumei  
など、書する文字は果して分明なる乎文明なるや分明せざるの  
恐れなきに非ざるなり

其他矢野氏は種々の例証を以て羅馬字の我社會に採用すべから  
ざる瑕点を挙げたれども我々は悉く賛稱し能はざるの議論も之  
れ有り即ち同氏は(羅馬字ナレハ外國又ハ我國ノ地名人名等ヲ書  
スルニ甚ダ都合善シ)との一点を駁したるところ是れなり之に對  
する同氏の論鋒を察するに

羅馬字ヲ用ヒテ外國ノ地名人名ヲ外國ノ音ノ如ク精密ニ記載  
シ得ルト假リ定ムルモ日本入ノ祭音ニテハ逆モ正シク是ヲ祭  
音シ得サル可シ若シ知ナテ之ヲ學ハ、之ヲ祭音シ得サルニア  
ラガレバ其舌ニ便ナラザルが故ニ自然ト口舌ニ便ナル様ニ祭



音スルニ至ル可シ英佛曼伊等ノ國語ハ皆異ナレ其相近キコト日本ト西洋トノ如キニアラズ然ルモ猶ホ其ノ發音ノ間ニハ多少ノ區別ナリテ英人ハ佛ノ地名人名ヲ佛人ノ如ク發音スルヲ難ク又佛人モ英ノ地名人名ヲ英人ノ如ク發音スルヲ難ク其他モ皆同様ナリ況ンヤ日本ノ如キ音聲ノ異ナル國人ハ如何ニ外國ノ地名人名ノ真ノ發音法ヲ知ルトモ是ヲ平常容易ニ他ノ日本語ノ間ニ雜ヘテ發音シ得ルヲハ思ヒモヨラヌ云々

氏は各國が地名に關する發音の差異をも掲げて其論点を確乎ならしめられたれども我々を以て之を見るときは地名人名を記入するに便利なる文字は現今の所にては世界中羅馬字を以て先づ最便の文字なりとせざるを得ず他なし我日本の假名字にては外國の地名人名を記載し難きにあらぶれども如何にして一歩も二歩

も羅馬字に譲らざるを得ざるべし然らば漢字は何歩を譲る可きや何歩を譲り得可きやと問ふに我が文學海の主人公たる此文字は外國は勿論内國の地名人名にも屢々錯誤を来たし度々人々をして失策せしむることあり

明治三十年十一月内務ノ衛生事務官其用務ヲ以テ青森縣ヲ巡回セリ而シテ東津輕郡衙ニ来リテ各町村長及有志者ニ向ヒテ演說セントスルヤ開口先ヅ私ハ昨日ひろまへしカラ當地ニ参リマシク云々傍聴者タル我々ハひろまへしトハ本縣ニ無シ他縣ナルヤ他縣ヨリ當地ニ來レル乎前後ノ談ニヨリハ本縣内タルニ似タリ然ラバひろまへしトハ何事ヤ曰ク間違カ聴キ間違カ全ク然ラバ然ラバ其ひろまへし其ひろまへしト漸ク弘前市ニ思ヒ當リテ



始メテ釋然タリ

曾テ或ル人福島縣下某郡ニ至リシ時地圖ヲ開キテ此ヨリ北ニ  
 當リテ坂下即チさかしたト申し処アリヤト其地ノ人ニ問ヒ  
 ケルニ其ノ人ノ申しニ坂下トハ聞ヌ名ナリト依テ其近隣ノ村  
 名ヲ讀ミ聞カセシニ其人漸クサトリテ其レハ(ばんが)ト申し所  
 ナリトテ互ニ大笑ヒシタルコトアリシト  
 今我々ハ旅客トシテ日本鉄道ニ乘リ東北ト東京間ヲ往來セバ  
 其停車場ヲ通過スルヤ小鳥谷好摩日詰石鳥谷小半田桑折等ア  
 ラン然ニ其掲札ニハ或ハ平假名ニテ書スル所アリモ時トシテ  
 本字ト羅馬字ノミ目ニ觸ル、<sup>ナ</sup>アリ然ル場合ニ於テ本字ヲ以  
 テ其停車場ヲ呼ガクハ或ハ間違ラン<sup>ナ</sup>ヲ恐レ羅馬字ヲ見テ  
 始テ此ハこづやニシテ彼ハひづめタル<sup>ナ</sup>ヲ知リテ安心スル<sup>ナ</sup>

アリ然ラバ多年苦學セシ結果モ自國ノ文字ニテ自國ノ地名ヲ  
 讀ムコト能ハズ外人ノ為ニセシ外邦ノ文字ニテ自國ノ地名ヲ  
 知ルトハ甚ダ馬鹿氣然トシテ又慨嘆ノ次第ナラズヤ然レモ是  
 レ余等ノミニアラズ其近地ノ人ナラデハ何人トモ免レ難キ  
 結果ナル可シ

斯ルことは我々漢字國の地名人名には澤山有勝にて常に目に觸  
 レ耳に和して其はその筈と心得敢て怪まらずとも其實を叩けば  
 博學多才にして學識和漢洋に渉る大博士と雖も苟も漢字の支配  
 を受くる以上は假令早引節用集を懐中にするとも決して免れが  
 る過誤と云ふべきか失策と申し可き乎是れ固より漢字の不便よ  
 リ起りたる一笑話なりとはいへ免に角羅馬字の便利なる点を立  
 証するに足るべし



顧ふに羅馬字を我國に採用すべからざる点は別個の理にあらん  
而して羅馬字の今日世界各国に横行して他の文字を自由自在に  
壓踏しつゝあるも亦別点にあらん

何を以て羅馬字は萬邦無類の健文字なるや蓋し羅馬字の斯く健  
全なるは二大特質あるが為なり二大特質とは何を也他なし其  
輕便にして綴字法なると簡易にして實用的なるとに在り如何に  
此の優勝文字なりとは云へ之を學理上より分析し或は討究する  
時は決して失点なきあらざ然れども其實際上に於て此非凡なる  
特質あるが故に其長所其短所を補ふて餘りありと謂ふ可し

第一 綴字法なる事

羅馬字の綴字法に就ては前々の章に於て多少論じたるが如く彼  
はBAと合しPCと綴りくゝて一語を造り一字を成すが故に尤も人

間の記憶と活用を勵まし遂に正々肅々堂々彬々たるものなり故  
に分解して孤立せしめ解散して其一個を見るときはマコトに簡  
單なる一兵卒のみ活力ある一平民のみ何等の虚飾なく何等の慢  
氣なし之を瞥見すれば問ふに足らず語るに足らざるが如きもの  
なり然れ共其相綴り相合して一聯の文字となり一團の文となる  
や首尾相和し字々相響き活氣勃々應用自在たらざるなし更に進  
みて師團となり群談とならや千書の山を越へ萬卷の海を渡り一  
日千枚の新紙に翻つて文明の風富強の雨を降りし一瞬萬里の  
旅行を爲して開化の花軍備の實となる豈に快ならずや豈に壯な  
らばや而も其解散して元に歸するや只是れ一平民のみ一小字の  
み然るに東亞の我々は彼に風韻の質雅趣の態なきを笑ひ彼は肉  
偏女へん彼是へんなく作りなく飾りなれば漢字に比して意味



甚だ薄きを嘲けり以て東亞の藝術をほころと雖も其規矩整々と  
して全体の結構雄大なるに至りては東亞の學術東亞の詩文の到  
底企て及ぶところにあらざるや一たび彼を熟覽し彼が真味を知  
りしもの、首肯するところなり故に我々が新文字を創製せんと  
欲せば是非此の一大便法たる特質を採用せざるを得ざるべし

### 第二章 實用的なる事

これ又我々は羅馬字の特質として常々感嘆するところなり勿論  
我々と雖も文學的の文字を好まざるにあらず然れども實用的に  
して而も文學的の文字は方今何れの國にも之れ有る無し必ず  
方に偏傾するを例とせり

今我々は黙々不言に耳をそばなて、漢字論者の言を聴けば甲の  
孔太郎は歴史家なり進んで曰く

形字又ハ意字の声字或は音字よりも學び難く入り難きは殆ど  
明白なる事實なれども我國家に行はる文字は古埃及又は「大キ  
シ」國の形字の如き蕪雜却稚なるものにあらず否むしハ漢文  
字は象形字の頗る發達したるもの即ち形字の漸く化醇して一  
種簡便の意字となれるもの或は意字としては畧々完全のもの  
なるやも未だ知るべからず好し一歩も二歩も譲りて漢字の不  
便利を許認するも我國には更に假字と云ふ一種の補充文字あ  
りて恰も漢字の不足を補ひつゝあるにあらずやと

乙の音次郎は詩學家なり切りに漢字に熟中して曰く

漢字は文學上欠く可らざる文字なりすなはち一字一句悉く詩  
趣的にして意味深重字義妙旨あり假令初學の聲學むわると  
するも又全く記憶し難きにあらず而して之を習熟すれば雅想



妙思詩語錦繡滑くが如く流るゝが如し云々

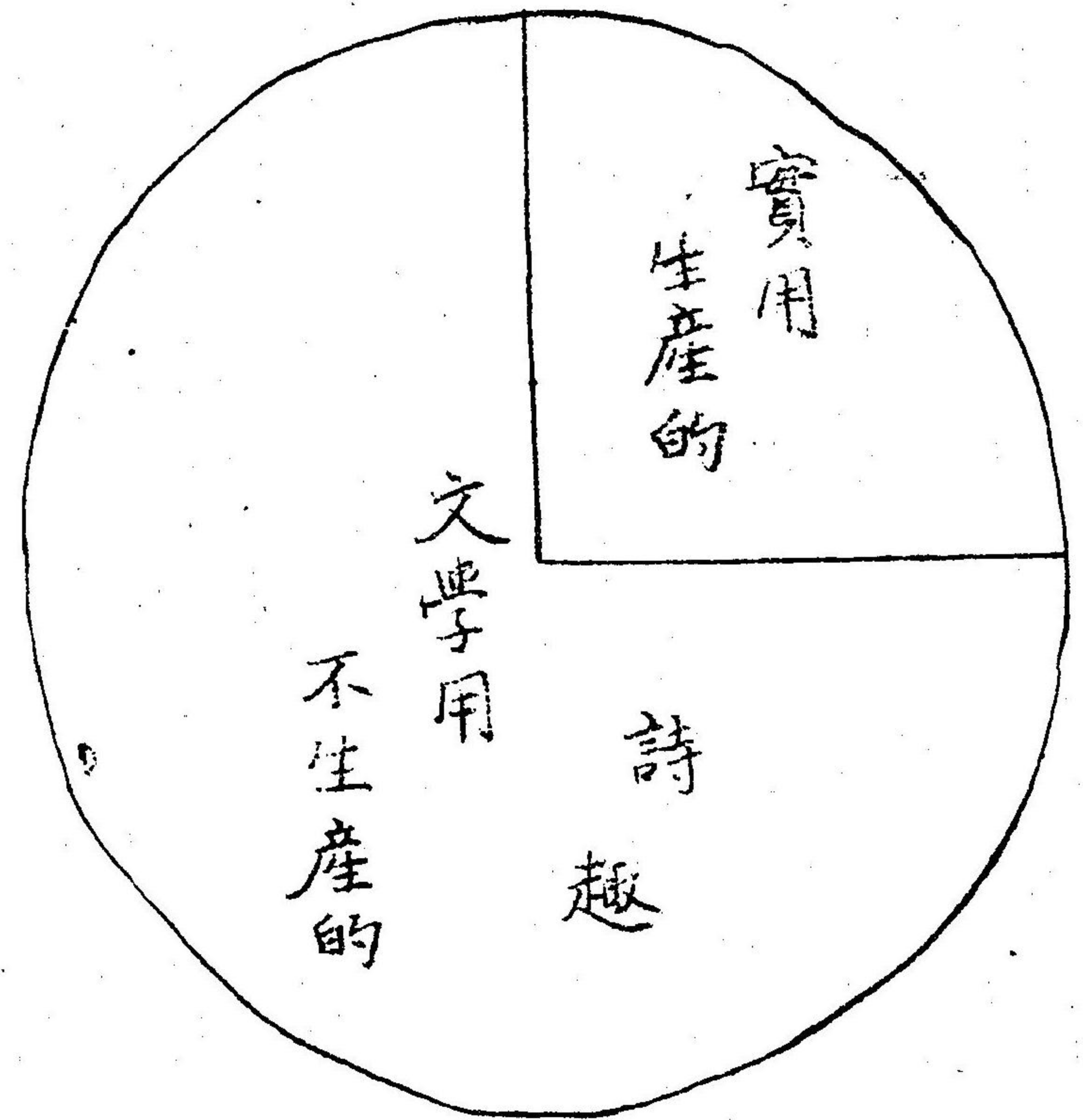
我々は以上の説を真なりとして意見を述ぶるときは是れ漢字は文學用詩趣的の文字にして羅馬字は實業用簡便的の文字なる也何人も異論なかる可し然らば則ち此の二主義が國民の智識に及す可き点は果して如何ぞや余は恐る徒に詩趣的の文字を採りて國字とする國民は其思想常に不生産的に傾きて真成に活潑なる精神を保持し兼るを何となれば何人も文學的に傾きたる人は其腦中に錦繡を藏し雅趣を貯ふる丈け其丈け世故に暗く自營自治の道に迂なればなり試みに頭を回らして世上を視れば誠に無筆同然ながらも世故に通じ世情を穿ち中々機敏闊達たるものあり實に淺學甚だ短聞ながら其思想活潑にして或る点に於ては學士はハカシ博士も三舍を避くるが如き人物なきにあらざ然に斯る

人物にても不運にして東亞の天地に生れ不幸にして七八年又は十年間のみ漢字を學ぶるときは其文字難屈にして不便なるが爲め生業に有益なる學術を究むるに由しなく只詩趣的の文字若干を記臆するのみにて却て是れ退歩的の國民と爲らざるなきを保せず是等の名玉をして只漢文字に耽らしめヌタ大祭明家大事業家大政治家大良民と爲さしめざるは豈に敢て國字に關係する所之れ無しと謂ふを得んや余は之を以て至大の關係あるものと診察せざるを得ざるなり

以上論ずるところによりて實用的の文字と文學的の文字と何れが如何なる性質を有するや而して何れか利何れか是得たいつれか非いつれか害なるや否を一層あきらかに判決せんとすれば蓋し左の如くなる可き乎

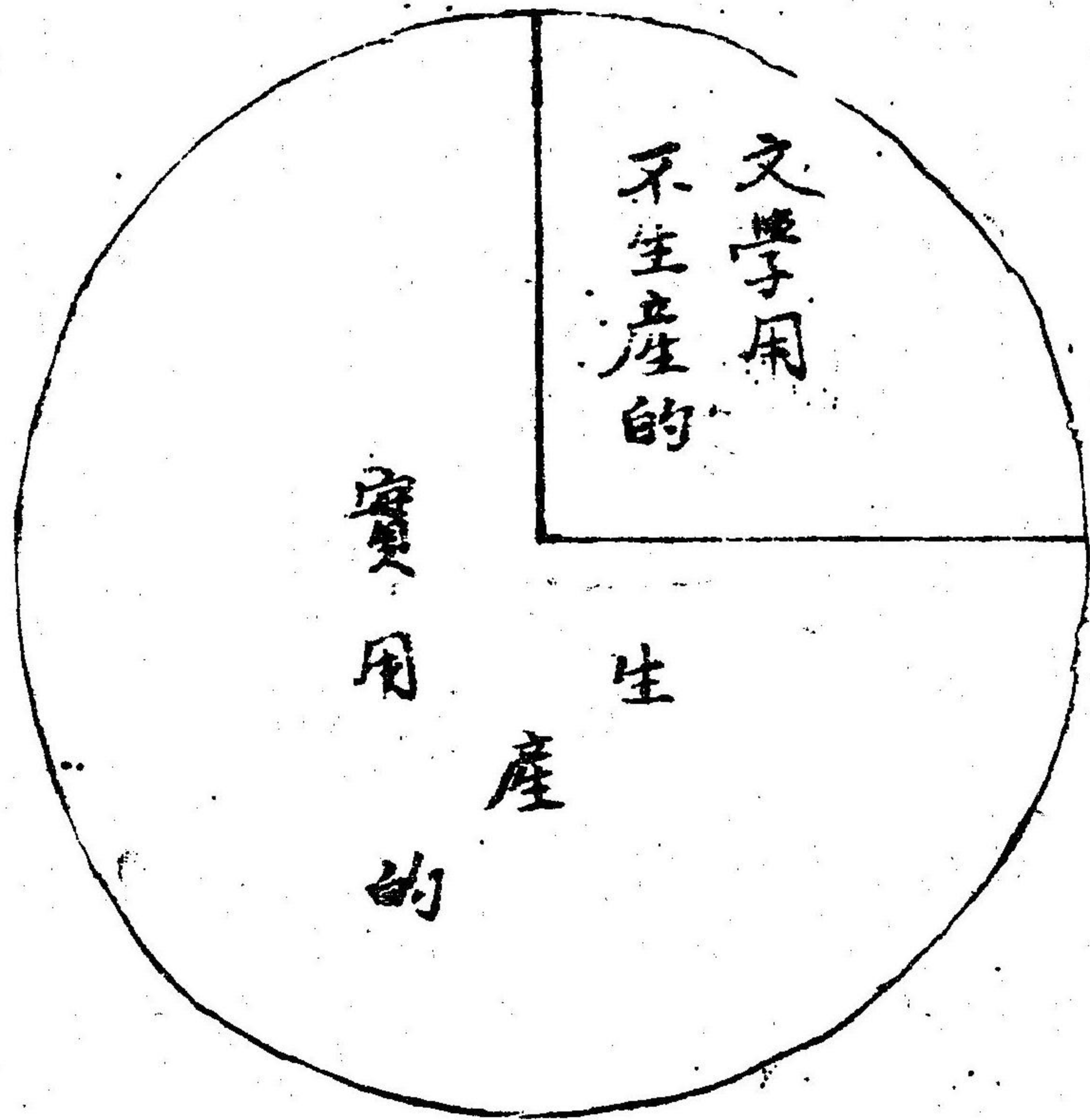


### 質性の字漢



三百六十度中不生産的即ち實用十ヶ点ハ二百七十度了  
 リテ生産的即ち實用アル点ハ僅ニ九十度アルノミ

### 質性の字馬羅



(以上十章以下ヲ参照ス可シ)

三百六十度中生産的ナルハ僅ニ九十度無ル可シ  
 度アリテ不生産的即ち雅趣的ハ僅ニ九十度無ル可シ

以上の例に依りて之を事實上に徴するに決して誤謬ナカクベシ



或る西洋人は曰く漢字は殆ど五六萬ありと曰ふと皇三四千を記  
憶するときは稍々漢書を讀み得べし然れども此の三四千字を  
悉するに非常の心勞と時間を要するなりと又漢字の長所を見る  
に古來より漢字の占領するところは讀書習字修身等二三月に過  
かす近來翻譯によりて漸く普通學を講習し得るに至りたれども  
一方に注意すれば一方に不注意に至るは自然の結果にして當時  
の書生は漢字の借居にして不便なるに加ふるに他の學課目か非  
常に多ふが爲に體力眼力筆力修身等に薄弱の点を生じしは我  
々の謹て保證するところなり斯る欠点はつまり自國の文字に無  
用を致したる所以にして好し然らばとするも漢字に伴ふは漢文  
學にして其不生産的なるは殊更に云々するまでも無かるべし古  
來より文學者の窮困するは漢字の文學者も羅馬字の文學も同一

轍なれども最も著しうは支那は勿論我國の漢學者と呼べる者に  
獨立獨歩の生計を立てたるものは殆ど稀有の至りなり亦や昔時  
は各藩みな士儒ありたれども是れ皆其藩主の御蔭と父祖又は子  
弟のミツキに依りて學者たる對面を維持せしこと猶ほ彼の羅馬  
擊劍音樂の技を以て其主に奉仕したると些の區別なきのみ申し  
ば今日の國民と雖も多ふく漢字を知り多ふく漢文に涉りたるも  
のは亦皆獨立獨行の計營を立て兼ねんとするは如何に我國の文  
字は人をして不生産的に陥らしむるを自白証明するものと謂ふ  
も敢て不可なかる可し  
是に依りて之を見れば我が東亞の詩文學者漢文字は如何に不生  
産的に傾けるや驚く可きの至りなり亦や之を個人的に比較して  
も彼我甚だ相異なること前段の圖解の如く一は實用の爲に文字



を學び一は詩文用の爲にしつゝあるにあらずや  
 聞く埃及にては種々の文字ありて之を學ぶに甚だ困難を極めた  
 れども己に學びたるところの文字は之を廢して新文字を採用す  
 るの勇氣なく宗教上束縛せられ且つ古代を尊び慕ふ心の深き埃  
 及人なれば人間固有の姑息心ありて其混雜なる文字より進みし  
 ことなくして只文字の形をクヅして草書體に変せしのみなりと  
 然るに四千五百年前の頃亞細亞の海岸より埃及の北の地方に殖  
 民せし「フェニシヤ」は甚だ實利にサトキのみならず埃及人の如く  
 昔時のものを保存し度考へなければ埃及文字の大に不便利甚だ  
 蕪雜なるを察し其の中自分の言葉を綴るに必用なる二十二文字  
 だけ取り是れ即ち「アルファベット」のみを以て言語を綴りしこ  
 との始めにして此より後の文字を真正の「アルファベット」と云へ

たりとぞ

「フェニシヤ」の人民は實用的の文字を工夫し得たれば之を先づ亞  
 細亞なる本國へ傳へ漸々年月を経るに隨ひ之を其近隣の各邦に  
 傳授し更に貿易の爲め西の方地中海の海岸に沿ふて航海し遂に  
 希臘に到りて其未だ無學なりし人民にも傳習せしめたるは凡そ  
 二千四五百年前の事なりと云ひ希臘人の手よりして歐洲の各  
 邦に擴め其伊太利の殖民地の一に傳りしものを羅馬字と稱せり  
 斯く羅馬字の發生したる因由を尋ねば方今字内は横行し各洲に  
 濶歩して當るところなき此好文字は學者即ち文學用の爲に生出  
 したるものにあらずして全く實業的便法として工夫したる一商  
 人の作なりしこと疑ふべからざる次第ならずや然らば則ちかゝ  
 る實業的無趣味の文字を傳授せられたる歐洲諸國に文學者なき



や否やと云ふに是れ決して然らば詩祖「ホーマー」を始として其作  
 詩家文學家哲學家小説家等の多ふること我が東洋の比にあらば  
 るなり何を以て彼が如く文學上の人物多ふさやと考一考するに  
 固より其文字簡便實用的なるが故に我東洋に於て千百人の餘暇  
 あり食録あり保護ある人士に學ばしめ得るところ彼等はさまで  
 餘暇なき實業家の子弟千万人の間に解せしめ而して其文字は趣  
 味なく風雅なしと雖も彼等は却て之が爲に落想面白く考案たく  
 みなること遙に東亞に駕するの長所を得らるが如き必竟その文字  
 の然らしむる所なりと謂ふも敢て失當にあらばるべし  
 羅馬字の徒文字にして二大特質を有するや此の如し故に我々は  
 若し羅馬字を採用す可らばとすれば必おや此二大長所を有する  
 と二ろの新國字を發明して而して國家將來の大方針を畫せざる

を得んや

此の他羅馬字を採りて國字とする時は或は其國体を損はんと杞  
 憂する論者あり是等は國体の何たるを誤解するの致し所ならん  
 何となれば羅馬字の勢力は歴史あり因縁ある所の我々が我國体  
 をも愛せしむる程の勢力あるものならば我々は到底其勢力の絶  
 大たるに抗すること能はざるが故に寧ろ速に我より降参的に採  
 用せざるべからざればなり志かし乍ら羅馬字は假令彼が如く二  
 大特質ありとも其の採用したる所の國体をも改むること能はざ  
 るものならん即ち今日の英佛伊曼は悉く同一轍の國体なりやと  
 云ふに決して然らぶるにあらずや又我漢文字の我國に傳來する  
 や當時我國に國字とすべきもの無く一意専念に漢字を學び漢文  
 書を崇拜し留學生を出し遣唐使を派し文物制度悉く唐國振を倣



はせ玉へたれども其結果の我國体は支那二十四朝の如き豪華ありて其民千ヤンダ々のたる也矢はり依然たる日本魂を有する瑞穂の國体を有するあるに非ず也然らば羅馬字を採用するとも我國体云々の事餘り心配するに足らずと謂ふ可きなり我々の羅馬字を採用せざる意見たる也斯の如き点にあらざして寧ろ我國語に適當なるや否や我文字改正上果して此文字の他に術なきや否や而して他に簡便の方法あらざる乎否の点にあるありて有するなり請ふ第九章を参看せられんことを

### 第七章

假名文字を専用するは如何

假名文字と漢字との優劣は龍溪矢野氏の日本文辭文字論に於て頗る詳細に論述しあれば余は茲に之を是非せんとするは徒勞なるが如し然れども同氏の所論たるや漢字の文章は目に見易く假名のみ文章は目に見分け難し故に假名文は不便利なりと論断せしに過ぎず其他種々なる例証なきに非れども餘り感服し兼る点も之れあり

余を以て思考するに日本の國語を表示するに我國の創製にかゝる假字は頗る有効のものなり只之を綴るに從來の如く縦列にのみものするときは所謂視感器すなはち眼力を勞すること非常なるべしと雖も之を漢字或は羅馬字の如く横列にも綴らば多少視感器に不利なるの点を避くることを得人乎彼の如き則



ち其一例と謂ふ可し故に若し將來大に假名文字を活用せんと欲すれば單にシヨウ又はキヨウなど、細長に書せずして左の如く書するは如何ぞや

シヨウ 𠂔クワン 𠂔

キヨウ 𠂔フワン 𠂔

リヨウ 𠂔シヤン 𠂔

ヒヨウ 𠂔ニヤン 𠂔

ミヨウ 𠂔キヤン 𠂔

又之を行草に畧して書するも益々便利なるを察見す可し

シヨウ 𠂔 𠂔 𠂔

キヨウ 𠂔 𠂔 𠂔

リヨウ 𠂔 𠂔 𠂔

ヒヨウ 𠂔 𠂔 𠂔

ミヨウ 𠂔 𠂔 𠂔



更に事物の名詞等を書するにもヤマ或はカハの如き単純なるものは兎に角三字五字と重ぬざるを得ざるものには右の筆法を用するの甚だ得策にして且つ便利なるを悟り得可し

ア　十　夕　　ア　　ア　　ヤ　マ　シ　ロ　　ヤ　シ　ロ

ワ　夕　シ　　宛　　イ　ワ　シ　ロ　　山　口

ヤ　マ　ト　　ヤ　ト　　千　ク　ゼ　シ　　千　シ

カ　ハ　ク　　旬　　カ　ハ　セ　ミ　　カ　セ

ム　サ　レ　　ム　ル　　キ　リ　ギ　リ　ス　　初　又

サ　ガ　ミ　　菴　　十　ン　テ　ン　　ナ　シ

カ　ウ　ベ　　旬　　十　ガ　サ　キ　　十　旬

ミ　ヤ　ギ　　洋　　ア　ヲ　モ　リ　　ア　ヲ

以上の如き活用と作例をかゝるときは尚多々ありて多々益々便利なるべし余は之を以て完全したる文字とは見做さずと雖も世上の論者が一概に假字を輕視し假字を以て視感器上採るべからずとするあらんを恐れてこゝに聊かその羅馬字的すなはち綴字法の一便法を示したるのみ若し夫れ余が胸中の本論を聴かんと欲するものあらば余は左の如く答辨せざるを得ず

一 文字をして必ず視感の便を主として作りしむるものならば



寧ろ畫圖の如く美なる漢文字を以て第一等の文字なりと謂はざるを得ざる可し然れども文字は決して視感の便利のみを計るものにあらずして又大に聴感すなはち耳の爲にも計らざるべからず能く傍人に分り多数衆座の席に於て各自の聴感をして分明に感動せしむるこそ良文字なりと云ふべけれ此必要なかりしならば漢字の内にも多畫にして異様の文字こそ社會の便利を計る可きに却て其記臆し易く活用し易き文字を以て大必要なりとするは何ぞや然らば文字はひとり視感の便のみにあらず最も大に記臆力の爲に計り次に聴感の爲に計らざるべからず

二 世人の千萬承知せらるゝ如く方今の世界は幾んど智慧くらべの世の中にて智慧少き者は後れを取り教育なき民は萬般に至る迄他國に壓倒せらるゝを免れず左れば一國に取ては其國民の

智識を廣むるより急務と云ふ大急務はあらざる可し而して智識を廣むるの手段は文字と文章の力に關係すること甚だ大なり若し世間に於て記臆に難渋する文字を學ぶものあり人乎其人や且り文字上の字義にのみ滿身の精神を分せしむ可し然るときは其人の學力は甚だ専門に流れ甚だ浮華に失し恰も字義の講釋師たるに適すべけれども之を以て日進文明の事物を研究又は生産し兼ねる甚だ不完全甚だ少數の人物に止るに至る可し然れば我が假名文字の如きは之を漢文字に比して詩趣風韻などの餘情なく極めて簡易なるものなれども之を記臆し得るの点に至てはまた極めて多大の特効なきにあらざるべし

三 勿論明治の文將たる矢野氏のことなれば此位の事柄は万々察知するとこゝなれども氏は假字の短所を能く論議したるほど



漢字の短所を穿鑿せざりしは我々の遺憾する所なり要するに假名文字のみ専用するときは其日本語に適當なると甚だ記臆し易き二大特質を察して從來我社會が大に實用的の思想に乏しかりし短所を療治し得るは明白なる次第なれども文章すべて平長に失し趣味なき和語に偏する恐れなきにあらざれば今後の社會に於て之を専用し得可しと断言し能はざるなり然らば則ち我々は如何乎すべきや請ふ之を第八章に於て求められんことを

第八章 新文字の主義

前回の如く論じ到り説き来らば如何なる文字は今後膨脹的の新日本に適當すべきや諸君請ふ余をして之を断言確定せしめよ余は左の五ヶ條に適ふところの文字を採用せんと欲す

- 一 實用的便利の文字
- 二 記臆し易き文字
- 三 活用自在たるもの
- 四 語調を正ふし易きもの
- 五 改正上便利のもの

余は此の主義に相當する文字を新造又は採用し之に反するものを廢改又は棄擲せざるべからざる時運に迫られつゝある我か新日本の同胞に相談せざるを得ず故に余は余か採るところの新文



字と現行の文字と羅馬字主義とかなのくわいの主義との諸派を  
掲記して而して何れか新字の主義に適するや否やを讀者諸君の  
一考に供せんと欲するなり

蝶々菜の葉に止れ

菜の葉に飽たら櫻に止れ

櫻の花の榮ゆる御代に

止れよ遊べ遊べよ止れ

右は現行の文字にて敢て六々しき文句にあらず数年間學びたる  
者は容易に解し得べしと雖も單に尋常中々學校を卒りたるもの  
にして爾後實業に従事せしものは斯る短歌の中にも忘れたる文字  
ありて概して讀み兼るもの多きは是れ漢字の特色にして第一第  
二の點に背戾する嫌なき能はざるべし況んや其他の奇文字或は

難文句に於ておや

てうてう なのは に とまれ

なのはに あいたら さくら に とまれ

さくらの はなの さかゆる みよに

とまれよ あそべ あそべよ とまれ

是れ曾て波のかなのくわいに於て切々主唱せし所謂謂簡易の假名  
字にして其の輕便なること非常なれとも第五の点等に及するを  
亦非常にして兎角此の假字のみを以て千種萬態の文明開化に實  
用し兼る欠点なきにあらず即ち第三の点も於ても活用自在たる  
と能はざるか故に全然たる賛成を表し難からむ

chōchō chōchō na no na ni tomare

na no na ni ditara, sakura ni tomare



Sakura no hana no sakayuru miyo ni.  
Tomare yo asobe, asobe yo tomare,

是れ實に羅馬字採用家の熱心主唱せしところにして其文字たるや世界の優勝國に流行し富國の友文明の民は皆此の文字を專用せざるはなし而して又我が國語を其儘に寫し得ること斯の如く便利なりと雖も只惜むらくは國語の異なる為に其文章とならや甚だ英米の文體と異り且つ我語調上多少の不便なき能はず故に我々は到底他の新文字を奈見工夫し兼るときは寧ろ漢文字の借屈を捨て、之を採用せんと欲すれとも此の事にも決して為す難さにあらず況んや右の文字には第二第五の点に背馳する所之れ有るを以てこれ亦然々か進みて大賛成を表しかたきところ有る也

𪛗々 𪛗の𪛗に とまれ

𪛗の𪛗に あいたら 𪛗に 𪛗れ

𪛗の 𪛗の さかゆる みよに

𪛗れよありで ありでよ 𪛗れ

少しく思案して其奇に驚かず其新を笑はず諸君の活眼を以て一讀せば何人の之を不便とするものあらんや是れ實に形字の長所として貴ぶところの篇を採り音聲字たる五十音を綴り付けたる新文字なり故に何人と雖も學び易く至り易きは勿論能く富強文明の主義に伴ひ其輕便的實用たる果して如何をや而してまた文字の改正上に於ては他のかなのくわいも羅馬字の主意に比すれば幾多の便利たる所あるにあらざや

余は今讀者諸君に案内仕らん諸君は宜しく左の新文字規定を確



守ま可し

一 大日本玉篇の漢字四萬九千四百五十の内最し必要にして有用なる文字凡そ數百個を元字として之を記憶し其他四萬九千貳百餘字を忘却すべし事

二 日月木火土金水鳥犬虫魚貝等數十字を母字として須らく記憶すべし事

三 母字を篇とふし冠となして五十音を活用し相結び相綴りて名詞動詞形容詞等を作り元字を間々應用すべし事

諸君は此の三大則を確信して靜に考慮せられよ一思一考の間に幾百千個の新文字は諸君の胸中に湧出して殆んど支へ難からん嗚呼是れ活用至便の次第ならずや而して諸君は幾多難屈不便の文字に千思萬苦或は字典を友とし或は玉篇を師として而も又節

用集等に終生汲々たる不幸を免るゝことを得らば必然たる可し

今余は讀者諸君に向て諸君ハ動物中の

つばめ かわせみ みずさぎ い かさぎ ひらかへる

みさご 等と植物中の からたち ひいき か江で すぎ

かいどう さけう かのき を漢文字にて書かれは如何と

問は恐くは博學多才の諸君と魚也或は明記確答すること能はかる点あらん而して諸君或は曰はん斯の如き文字を知りたりとて何の用をか為さん必要ある時は節用集を探り玉篇典を穿議し然らざれば五十音いろはにて記す可しと放言し得可き乎然るに他日人あり左記の文字を知らんと欲して諸君に請ふあらば諸君は如何乎答ふ可きや

鹿角菜 枸橘 海棠 桔梗 燕 翡翠 熊 鶉 鶉 鶉



麒麟 蟾蜍 檀 杉 楓 獅 石斑魚 神 楯 持 瓜 枝

是に答ふるに能はざる時は諸君は諸君の目方を下げ面目を失するや必せり故に我々は斯の如く難屋なるのみならず草類にして木篇なるあり鳥類にして鳥へ人ならざる怪文字に忍耐し得可きや諸君はいと、其六ヶ敷に閉口せんと斯る迂濶不便の文字に至貴最重の時間を消費し或は子弟を叱責し或は師友を怨ましむるハ豈に野蠻的不經濟の至極ならずや是に於て我々の諸君及び天下の同胞ハ羅馬字を採用する乎將又かな文字或は速記法にて書記するを良とするや如何

余は識る余は東亞の中にて最も賢明最も敏達にして人種は黄金特有の大和魂ある我皇國男女か必ず喜で新國字を迎へ心大に察知するところあるを又諸君ハ果して左の如く記するハ誠に有益

有利にして實に新主義に適合するものたるを認定せんこと余か信じて疑はざる所あり

鯨	蚌	鵲	芒	汗
楸	栲	狽	檉	檉
楸	栲	鵲	檉	檉
楸	栲	鵲	檉	檉
楸	栲	鵲	檉	檉
楸	栲	鵲	檉	檉
楸	栲	鵲	檉	檉
楸	栲	鵲	檉	檉
楸	栲	鵲	檉	檉
楸	栲	鵲	檉	檉



諸君はすべてに新字の主義、実用的輕便よして而も記憶し易く活  
 用自在よして改正上進みて取る可く退て忘れ難き文字たることを  
 知り且つ又幾百千の文字を一夜よして活識明記せしならんと雖  
 も余は尚ほ次回に至り之を詳論せんとあるあるは請ふ更し熟読  
 玩味せられんことを

第九章 新文字の活用

余は前段に於て新文字の短歌を掲りたるのみなるを以て更に活  
 用して種々の長文を掲記せんと欲すれども一々之を木板に刻せ  
 ざれば諸君に明示し難きを以て精細なる活用は何れ他日にゆづ  
 りざるを得ず然れども余は望む諸君は左記數要則に注目して而  
 して新字を應用せんことを

- 一 母字と假字と相結ばんとするとき成る可く其の頭字を  
 大形に書す可し(但此は日本語に適し)
- 一 二字三字連用の時音讀せんとするに假字の頭文字一個  
 又は二個を通用するも可あり
- 一 人名を記するには男名は人篇に依りてあらはし女名は女  
 篇を添へなば活用自在決して漢字の如く男女區別を判じ







一 新字の補字として漢字の内数百字を精撰運用する事  
元字即ち補字と呼びしは左の如し

一二三四五六七八九十百千万上下左右前後東西南北日月  
木火土金水甲乙丙丁戊己庚辛壬癸父母大小重高長貫目斤  
天帝玉皇尚且及彼我行京府市町何以事中也凡世字主乃等

一 次に数多の名詞動詞形容詞等を調製するに母字を一定  
する事

母字とは左の如し

人力刀土女口ウ山心 才同 文水 同 犬 才同 邑 下同 工  
日月火玉田石示禾米市糸色艸サ同衣 衣同 走言貝足身广  
東金兩食華門舟竹舌耳毛目瓦虫魚鳥香骨門行口凡中音走  
以上六七十字を要す

一 禾は艸字に入ら可きものなれども植物學上禾穀最貴  
重にして其類亦多きを以て特に禾の字を採用す  
一 赤白青の諸色は色の字にて顯しときは却て秩序簡明なる  
可し  
一 甘酸辛苦は凡て口又は舌にて記するが便なり  
一 虎羊鹿牛豕の族は巳に述べたる如く犬へんに捨るを以て  
動物學上の便とす

一 損益収利の件は漢字にては殆ど判じ兼らもの多し故に  
文明的に金へんを以て顯はしを要すとす

以上の如き方法を依りて新文字を沿用すれば數萬の漢字自ら退  
却逃去するのみならず新文字の廣益有用なる也早し漢字に止ら  
ず我帝國及亞細亞にならんとするの草木動物礦石等の新名詞を記



載し得るの便あるべし

世人或は曰はん斯の如きは單に漢字の内名詞動詞形容詞などを減じ得可きも高尚なる學語及形容詞は到底改良し能はざる可しと是れ一を察して二を知らざる言と謂つべし何となれば往昔昔備の大匠か片假名を製作せし時に當り誰れか其効用今日の如く偉大の効力を我々に與ふることを知らんや一字を累し一個を簡便にする亦一利一益あるに況んや数千の文字を全く綴りの簡便法に化して更に數万個に適用せしむることを得るに於てたや且つ今日のところ社會の實行を專用とするか故に我々の讀者諸彦は全力の熱心を以て我々か立てし法則の下に新文字を活用勉磨すれば向來新日本の善男善女は大に修學上の煩悩を免れ而して其苦悩を轉じて實際の利用厚生の道に精神を注ぐを得て諸君の

業力も亦非常の長足進歩して世界の文壇に駆け宇内の實業上には雄然闊歩するを得るに至らん  
若し我々の讀者諸君は以上明きせしのみにては未だ靴を隔て、痒を搔くの感なき能はざる点なりともしも非ざるべければ諸君は宜しく本全篇を熟讀玩味せらる可し而して其詳細に至りては何れ新字文典等を必要とするは勿論の次第ならんと雖も差當り本論を以て新字の活法軌範とするも敢て差支無かる可し  
それ然り而して余は今將來に於ける我が普通教育上に関し聊か諸君に請はんと欲するものあり他なし諸君をして暫時の間世界の  
の大視學官萬國の學務委員たりしめんこと是れなり事甚だ火急に先すれども諸君請ふ宜しく此の大任を帯びて旅途に上り火輪に乗り風船に駕し千里の眼を放つ順風耳を用ひて以て左記の如



く巡覽せんことを

\* \* \* \* \*

此處ハ何レゾ此山ハ是ガ蘇州ノ一村里白聖觀然タル一校有リ  
 教師正ニ教授シテ曰ク綴リガ大切ナリ諸君ノ如キ幼年生ハ第  
 一ニツヅリテ熟練スベシ初級ニ於テツヅリニ熟スレバ三年四  
 年ニ至レバ讀書ニ骨ヲ折ラズ利カテ以テ輒竹ヲ割ルカ如シ我  
 英國ノ文字ハ音聲字トテ二十六字ノ外ニ文字ナシ之ヲ綴ルニ  
 熟スレバ僅々兩三年ノ歲月ニ忽チ千萬無類ノ活用力ヲ得ルモ  
 ノナリ決シテ彼ノ未開國ノ文字ノ如ク一事一物毎ニ文字ヲ加  
 ヘテ多年難流スルカ如キ憂ヘハアラズ皆サシクツクヲ開ケ  
 甲級ノ一生先生ヲ呼ンテ曰クソコハ昨日習フタルトコロニテ  
 我々ハ澤山記憶セリ子キストヲ讀ンテ見マセウ

此ノ処畧ス

彼ハ何レゾ彼ノ川ハ彼ガライン河畔ノ地廣キトコロノ一小学  
 校ナリ彼等ハ如何ニシテ教授シツ、アルヤ如何ナルモノヲ  
 取シワ、アルヤ  
 教員曰ク「トーフエルト」フエーテル」ヲ出セ而シテ「ウギンド」及ヒ  
 モ「ド」ヲ綴レト  
 生徒等快活ニ左ノ如ク綴レムシ

MINN BRONN

翻テ支那又ハ朝鮮ノ小学校ヲ御覽セヨ陽山ノ麓黃河ノホトリ  
 ニ於テ彼等ハ如何ナルモノヲ教授シツ、アルヤ  
 教師曰ク石板ト石筆トヲ出セ而シテ風及月ヲ風スベシ生徒ハ



頭ヲ下ケシハラク思案シテ左ノ如ク答フルモノアリ

甲ハ風目 乙ハ風月

教師曰ク是ハ間違ナラズヤ風ニ片ナケレハ半風トテ風ナリ月ニ一莫多ブケレハ目ナリ能ク能ク注意センケレハ如何ゾヨ因ツタモンダ記憶力カナイカラ云々

甲生曰ク先生ヨ僕ハ文字ヲ七十以上覚ヘテ居リマス

教師威張顔シテ曰ク抑モ我中華中國ノ文字ハ洋夷外蠻ト異ナリ四万九百九十九及九千アルゾヨ

乙生曰クソレレジヤ英佛獨魯等ニハ或十万字程アリマセウナ

教師曰ク外夷ハ二十六字サ

甲生曰クアラ二十六シカアリマセンノ僕ヨリモ不学ダワタクレアラタブハオ

學務委員ノ一人クマリ兼テ叫ンテ曰ク

嗚呼日本ノ先生之ヲ見彼ヲ聞キテ如何ナル感想ヲ起スヤ我が就學ノ子弟三百六七十万人此何レノ境遇ニ近似セルヤ我々ハドゾ綴字的ノ文書ヲ以テ教授セント欲セズシテ可ナリヤ而シテ我形字ノ止ムヲ得カシ綴字法ニアラズシテ全ク風風月目或ハ魯魚ノ混雜アルニアラズヤ今我々ハ茲ニ之ヲ大改正シテ一ノ綴字的ニ改メ一ノ輕便ナル文書ヲ作り生徒ヲシテ之ヲ習得セシムルニ易ク生徒ハ之ヲ知リテ容易ニ文字ヲ知リ其ノ記憶力ト活用カトヲ勵マサバ教育上如何ナル良結果ゾヤト

諸君は亦欧米の新聞雜誌ハ決してふり假名附おあらざることを見たり而して欧米の人民は東亞の人民より数十倍書き讀みする事を見聞したり加之欧米の民は堅忍不拔の氣力ヲ富み勞役の餘



暇にも學問するものあるを見たり而して諸君は波濤の會話や文章は兩三年の歲月にて頗る通譯し得るを見たり

是に於て視學官の一群あまた、び慨嘆せり

甲は曰く

嗚呼東亞の人民か無學にして無氣力なるは全く其幼年の頃より學び難きの文字を學び習ひ難きの字句を習ひ而して日々呵責せられ常に嚴訓せらるゝ、在り故に其思想の堅確ならずは屢々吾人か之を大声疾呼して生徒諸子に告ぐる所あり而して學生諸子も亦常に相戒むる所あるは多少諸子の腦底に印する所なる可し然れども其實實際上に於ては尤に吾人の豫期する處に及せるあり否な學生諸子の言行一致せざる人々の多し多あること驚嘆するの外なきなり言行の一致せざるといへば

163

や吾人の豫期に及するものとは何ぞや他なし學生諸君中に於て目的の定まらざるは是なり朝に詩文學を學ばんと請ひて夕に英學を修めんと欲え昨は數學の門に入りて今は簿記學の列に加はらんと欲するか如く一事一業も成就するをなく僅々一兩部の獨修書を閲すれば直に倦怠して他の業に移らんとするもの極めて多し而して其原因を討究するに是れ日本少年の特性本色として到底改むべからざるものある乎吾人は察見せり吾人は視察せり是全く日本少年の本色特質に非ずして寧ろ日本文字の然らしむる所なり朝に英米と約し暮に魯佛と密約するは方今東亞の痛嘆切齒す可き所あり而して之か本原因を極むれば一國の智識を維持し百般の基軸たる所の文字文辭の實用のならざるに歸せずんばあらず



乙は曰く

試に我輩ノ如ク學者タリ博士タル眼光ヨリ見ルトキハ頗ル  
 難屈若シクハ詩趣的ヲ含有スル文字ナリトモ少シモ氣ニモ苦  
 ニモ掛クベカラザルガ如シト雖モ一般人民トナリテ自治自營  
 ノ世渡リヲ立テ多少勞力營業ニ従事スル身トナリテハ詩趣モ  
 系瓜モ入ルモノニアラズ一杯ノ寢酒ニ終日ノ勞ヲ慰メザルヲ  
 得ズ片紙ノ新聞ニ一日ノ悶ヲ遣ラザルベカラズ又何ゾ字畫ヲ  
 飾リ音ヲタツ子訓ヲ探ル難屈文字ニ耽ケルヲ得ンヤ

丙は曰く

偶々堅忍不拔ノ志ヲ立テ農事ノ忙養替ノ繁ニモ決シテ休學ス  
 ルコトナク烟草ヲ喫スルノ暇寢酒ヲ吞ムノ時或ハ晝食ノ間ニ  
 於テモ修學セントテ惹氣込モノアルモ如何セン左ノ事實ハ常

ニ廢學々々ノ方向ニ誘導スルコト甚ダ切ナルヲ

- 一 主用ヲ達スルニ周到ナラザル欽点ヲ生ズル事
- 一 修學ノ文句ハ日常ノ言語ト天地ノ差アル事
- 一 勞力ノ身軀ハ休息スレハ忽チ睡眠ニ易キ事
- 一 日本ノ文字ハ字数限リナク忘失ニ易キ事
- 一 主人ノ訓誨ハ生意氣ニ漢語學語ヲ弄スルナト云フ事
- 一 吾家ハ二三代無筆ナレドモいろは庫ト曰ハル、事
- 一 日本ノ風習ハ餘リ小笠原流メキテ午間取ル事
- 一 諸學校又ハ官舎ノ試験規則ヲ見ルニ必ズ漢學國語會話等  
 アリテ漢ヲ學ベハ洋ヲ志シ洋ヲ學ベハ漢ニ失スル事
- 一 普通ノ人民ニテモ先ヅ漢學ニ苦ミ次ニ國語ト云フ古語ニ  
 苦ミ三次に俗語即チ地方語ニ苦ムノ三段三苦ヲ終ル事



一 親父サンハ曰ク寶打出ス小槌トハ稼ガ腕ナリ稼ガニ追着ク貧乏ナシ稼ガが第一ナリト呵責スル事

一 日本ノ村落ニハ種々光陰ノ無駄遣ヒアリテ正月の祝式村社参詣寺参り端午の式荒神祭七夕祭獅子舞盆踊御山参詣庚申祭見世物等ニ友達ノ誘引仲間ノ義理合ヲ觀ミ之レニ風化セラレ中々修學シ難キ事

一 村内ニ有益ノ會合ナク村農會ハ名ノミニシテ時間ニ會合スルモノナク誰ニ就キ彼ニ聞クコトモ出未ザル事

右の諸件は東亞の人間を化して小なる實業家を出し小なる金満家と爲し小なる政治家と小なる學者と無數の無學民を造り而して遂に外國の新聞紙をして左の如く曰はしむ

外國の新聞會て曰く日本人は性質輕急にして克く始めあらず克く終りなし個人を以て驗するに宜に然る矣或り左れど日本人は謂ふ日本國民か一旦國事に當りてや其精力其熱情の同断なく繼續するは夫の列星か太陽系を旋回止まざる多勢勢たりと我々は日本人の言の當否を知らず且つ試みに日本國民を以て歐洲列國の人民に對比せし日本國民の風習舊慣道德ハ歐洲列國よりも數等の下位に在るに非ずや日本は爾今歐洲列國と駢馳せん爲め走馬燈の如く休まず斃れず疾走せざるべからず而して外國の一進歩ある毎に激烈なる刺衝を感せざるべからず寧ろ奔命に疲れざるを得んや日本人は此點に就て日本は此難所を無事に経過し天下を驚倒せしむしとの旨を説くものあり左れど何故に其然る半を説かず是れ日本人の一癖あり然るに幸運なる哉日本は地形上非常の好位地に建國し殆んど外敵を有せず左は謂ハ一朝外國

一 親父サンハ曰ク寶打出ス小槌トハ稼ガ腕ナリ稼ガニ追着ク貧乏ナシ稼ガが第一ナリト呵責スル事

一 日本ノ村落ニハ種々光陰ノ無駄遣ヒアリテ正月の祝式村社参詣寺参り端午の式荒神祭七夕祭獅子舞盆踊御山参詣庚申祭見世物等ニ友達ノ誘引仲間ノ義理合ヲ觀ミ之レニ風化セラレ中々修學シ難キ事

一 村内ニ有益ノ會合ナク村農會ハ名ノミニシテ時間ニ會合スルモノナク誰ニ就キ彼ニ聞クコトモ出未ザル事

右の諸件は東亞の人間を化して小なる實業家を出し小なる金満家と爲し小なる政治家と小なる學者と無數の無學民を造り而して遂に外國の新聞紙をして左の如く曰はしむ

外國の新聞會て曰く日本人は性質輕急にして克く始めあらず克く終りなし個人を以て驗するに宜に然る矣或り左れど日本人は謂ふ日本國民か一旦國事に當りてや其精力其熱情の同断なく繼續するは夫の列星か太陽系を旋回止まざる多勢勢たりと我々は日本人の言の當否を知らず且つ試みに日本國民を以て歐洲列國の人民に對比せし日本國民の風習舊慣道德ハ歐洲列國よりも數等の下位に在るに非ずや日本は爾今歐洲列國と駢馳せん爲め走馬燈の如く休まず斃れず疾走せざるべからず而して外國の一進歩ある毎に激烈なる刺衝を感せざるべからず寧ろ奔命に疲れざるを得んや日本人は此點に就て日本は此難所を無事に経過し天下を驚倒せしむしとの旨を説くものあり左れど何故に其然る半を説かず是れ日本人の一癖あり然るに幸運なる哉日本は地形上非常の好位地に建國し殆んど外敵を有せず左は謂ハ一朝外國



か日本の國權を傷くるか如きことあらは日本國民は噴火山の如く破裂す可し云々

諸君は斯る評論を受けて歸郷せり而して某年某月に大集會を開設せり諸君は政米の文字は如何に簡便にして如何に千萬の學術を講究するに適良たるを視察せり

諸君は亦深く社會教育の學校教育より恐るべき勢力あるを察し政米の農商民社會に就き其人民は學術の講話を聞く習慣ありて淫祠邪佛に耽り或は無用の法式に光陰を徒消すること少く各村の農會諸郷の俱樂部は月に開かれ週に設けて或は實業家の履歴談經濟法家政話を聞き或は學理の應用を聞き隣保闔村相會し相益する良風あるを見たり

諸君は遂に大経綸を吐けり東亞の劣敗する所以を説けり諸君の

眼光は從來只遊學一途又は官務の爲に政米に寄留せしものと月艷の相異あり諸君は遂に我日本の普通教育を大改良を加へたり而して數年の後諸君は新日本の諸學校を巡回視學せり

\* \* \* \* \*

富岳ノ秀麗ナルトコロ青濤ノ美々洋々タルトコロニ於テ新日

本ノ我々ハ如何ナル教授ヲ爲シツ、アルヤ

訓導司曰ク石板ト石筆トヲ出セ而シテ汝等カ胸中ニ存ズル新字

又ハ新文句ヲ書記セヨ尤モ尋常二年生ハ

動植物ノ名ヲ十個ツ、

同三年生ハ男女ノ姓名五個ツ、

同四年生及高等生ハ思フトコロヲ書ケ



生徒ハイヅレモ欣然タル顔容快活ナル氣象ヲ帯ビ訓道寸ノ令ニ  
依リ書スルコト左記ノ如シ

第百八十六ページニ附記セシ如ク  
クノシフンノ如キ假字ヲ用フ可キ  
処ヘ久乃士不元ノ如キ字假名ヲ用  
スルトキハ字躰大ニ引立ツ可シ然  
レモ初等教授ノ場合ハ用ヒガレヲ  
可ナリトス

鯨 鯨 鮫 鮫  
鯨 鯨 鮫 鮫

二年生 磯川 婿